

COMPAQ

リモートInsightボード/PCI
インストールレーション ガイド

第2版 (1999年5月)
製品番号 294024-192
Compaq Computer Corporation

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接的損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。本情報はそのままの状態を提供されるものであり、Compaq Computer Corporationは、本情報について、いかなる明示、黙示、または一般法上の保証を否認します。また、商品性、特定の目的のための適合性、権限および権利侵害に関する黙示の保証について、ここに一切否認します。

本書には、著作権によって保護された情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Compaq Computer Corporationの書面による承諾なしに複写あるいは複製することはできません。

本書で取り扱っているソフトウェアは、ライセンス契約、または秘密保持契約にもとづいて供給されます。したがってこのソフトウェアは、それらの契約事項にそって使用することが許諾されています。付属のプログラム使用許諾契約書の記載内容をご確認のうえ利用してください。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

©1999 Compaq Computer Corporation

All rights reserved.

©1999 コンパックコンピュータ株式会社

Compaq、Deskpro、Fastart、Compaq Insight マネージャ、Systempro、Systempro/LT、ProLiant、ROMPaq、QVision、SmartStart、NetFlex、QuickFind、PaqFax、ProSignia、Neoserver、Netelligent、Systempro/XL、SoftPaq、QuickBlankおよびQuickLockは、米国Compaq Computer Corporationの商標です。

Microsoft、MS-DOS、WindowsおよびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。

Xeonは、米国Intel Corporationの商標です。

CompaqリモートInsightボード/PCIインストレーション ガイド
第2版（1999年5月）
製品番号 294024-192

目次

このガイドの使い方

表記上の規則	ix
本文中の記号	x
装置の記号	x
ラックに関する注意	xi
困ったときは	xi
コンパックのWebサイト	xi

第1章

リモートInsightボード/PCIの概要

はじめに	1-1
特長	1-2
サポートされるハードウェアおよびソフトウェア	1-3
モデル	1-4
リモートInsightボード/PCIオプション キットの内容	1-5
動作の概要	1-6
Compaq Insightマネージャによるアクセス	1-7
Windows NTに対するグラフィカル リモート アクセス	1-7
ブラウザ サポート	1-7
PPPダイヤルイン アクセス	1-8
アラート	1-8
セキュリティ機能	1-8
バッテリー バックアップ	1-9

第2章

リモートInsightボード/PCIのインストール

この章について	2-1
リモートInsightボード/PCIのインストール	2-2
リモートInsightボード/PCIの準備	2-2
スロットの選択	2-2
サーバの分解	2-5
ボードをサーバにインストールする	2-5
サーバの再組み立て	2-5
リモートInsightボード/PCIの接続	2-6
キーボード ケーブルの接続	2-7
モニタ ケーブルの接続	2-7
シリアル ケーブルの接続	2-8
電話ケーブルの接続	2-9
LANケーブルの接続	2-10
サーバの電源コードの接続	2-11
PCカードの交換またはインストール	2-12

第3章

リモートInsightボード/PCIソフトウェアの設定

ソフトウェアのインストールおよび設定	3-1
SmartStartによる設定	3-3
システム コンフィギュレーション ユーティリティによる設定	3-5
リモートInsightボード デバイス ドライバのインストール	3-5
NetWare ドライバのサポート	3-6
Windows NT ドライバのサポート	3-7
SCO UnixWare ドライバのサポート	3-9
リモート制御ソフトウェアのインストールと設定	3-9
pcANYWHERE	3-9
情報の入手方法	3-11

付録A

規定に関するご注意

各国別勧告	A-1
Federal Communications Commission Notice (米国)	A-2
Class A Equipment	A-2
Class B Equipment	A-2
Modifications	A-3
Cables	A-3
Declaration of Conformity for Products Marked with FCC Logo, United States Only	A-3

Canadian Notice (Avis Canadien) (カナダおよびカナダ、フランス語使用地域)	A-4
Class A Equipment	A-4
Class B Equipment	A-4
European Union Notice	A-4
モデムの認定番号	A-5
バッテリーの取り扱いについてのご注意	A-5
モデムに関するご注意	A-6
認定機関の識別番号	A-6
U.S. Regulations Governing the Use of Modems	A-6
Ringer Equivalence Number	A-6
Telephone Consumer Protection Act of 1991	A-7
Canadian Regulations Governing the Use of Modems	A-7
European Union Notice	A-8
New Zealand Modem Statements	A-9

付録B

静電気対策

アースの方法	B-2
--------	-----

付録C

複雑なネットワーク環境の設定

リモートInsightボードの接続について	C-1
ルートの追加と削除	C-2
モデムを使用したWAN接続	C-3
LAN接続	C-4
複数のLAN接続	C-5
ルータを使用した複数のLAN接続	C-7

付録D

リモートInsightボードの設定パラメータ

この付録について	D-1
サーバの識別	D-4
PCIリソース	D-4
サーバ名	D-4
サーバID	D-4
シリアル番号	D-4
ファームウェアのバージョン	D-4
フリーウェアの日付	D-5

ネットワーク インタフェース	D-5
ステータス	D-5
トランシーバの速度	D-5
IPアドレス	D-5
デフォルト ゲートウェイ	D-5
サブネット マスク	D-6
MACアドレス	D-6
モデムの設定	D-6
モデム ステータス	D-6
ポート速度	D-6
データ ビット	D-6
パリティ	D-7
ストップ ビット	D-7
リセット コマンド	D-7
初期化コマンド	D-7
ダイヤル プレフィックス コマンド	D-7
国別コード	D-7
RIB-クライアントIPアドレス	D-8
クライアント-RIB IPアドレス	D-8
IPサブネット マスク	D-8
シリアル ポート設定	D-8
シリアル ポートの状態	D-8
ポート速度	D-9
データ ビット	D-9
パリティ	D-10
ストップ ビット	D-10
外付モデム リセット コマンド	D-10
外付モデム初期化コマンド	D-10
外付モデム ダイヤル プレフィックス	D-10
シリアル ポートの初期化	D-11
NTのグラフィカル リモート制御	D-11
NTのグラフィカル リモート制御	D-11
RIB-サーバ間のIPアドレス	D-11
サーバ-RIB間のIPアドレス	D-11
IPサブネット マスク	D-11
ポケットベルの設定	D-12
ポート速度	D-12
データ ビット	D-12
パリティ	D-12
ストップ ビット	D-12
遅延時間	D-12
プレフィックス コマンド	D-13
サフィックス コマンド	D-13
ポケットベル パスワード	D-13
ダイヤルイン セキュリティ	D-13

ログイン回数のスレッシュヨルド	D-13
ダイヤルバック	D-13
ユーザの設定	D-14
ユーザ名	D-14
ログイン名	D-14
パスワード	D-14
ダイヤルバック番号	D-14
ポケットベルの種類	D-15
ポケベルの番号	D-15
ポケットベルID/PIN	D-15
PPP/SNMP電話番号	D-15
SNMP IPアドレス	D-16
セキュリティ アクセス	D-16
受信アラート	D-17
キーボード	D-17
アラート	D-17
待機中アラート	D-18
待機中アラートのキャンセル	D-18
イベント ログの消去	D-18
バッテリー	D-18
バッテリーの状態	D-18
リセット コマンド	D-18
通信設定	D-18

索引

このガイドの使い方

このユーザ ガイドでは、インストール手順を順に説明しています。

表記上の規則

このガイドでは、以下の表記法を使用します。

キー	大文字で表記します。2つのキーの間の正符号 (+) は、それらのキーを同時に押さなければならないことを示します。
ユーザ入力	別の字体の大文字で表記します。
ファイル名	イタリック体の大文字で表記します。
コマンド、 ディレクトリ名 およびドライブ名	[]で囲み表記します。
コマンド、 ディレクトリ名 およびドライブ名	すべて太字で表記します。
タイプ	情報を入力した後 Enter キーを押す必要がない場合、「タイプしてください」と指示します。
入力	情報を入力した後 Enter キーを押す必要がある場合、「入力してください」と指示します。

本文中の記号

以下の記号は、本文中で安全上重要な注意事項を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します

重要: 詳しい説明や具体的な手順を示します

注: 解説、補足または興味深い情報を示します。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。カバー内には、一般のユーザが修理できる部品は入っていません。

警告: 感電を防止するために、このカバーを開けないようにしてください。



これらの記号が貼付されたRJ-45コネクタはネットワーク インタフェース接続用であることを示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのコネクタに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
- ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
- 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
- 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
- 一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。

困ったときは

問題が発生し、このガイドの情報だけでは解決できない場合、次のところから詳細な情報やその他のヘルプ情報を入手できます。

コンパックのWebサイト

コンパックのWebサイトでは、最新のドライバやフラッシュROMに関する製品情報を提供しています。コンパックのWebサイト (<http://www.compaq.co.jp/> または <http://www.compaq.com/>) にアクセスするには、インターネットにログオンする必要があります。

リモートInsightボード/PCIの概要

はじめに

CompaqリモートInsightボード/PCIは、サーバにインストールされたPCIベースのシングルボード コンピュータで、ホストのオペレーティング システムやCPUの状態に関係なく、リモートでサーバの管理ができます。

内蔵のプロセッサとバッテリー バックアップを組み合わせることによって、リモートInsightボードは、ホスト サーバおよびそのオペレーティング システムとは独立して動作が可能です。こうすることによって、ホスト サーバのオペレーティング システムが停止している場合や、またはサーバの電源が落ちている場合でも、リモートInsightボードは、リモートからのアクセスやアラートの送信を行ったり、その他の機能を実行することができます。

Compaq Insight マネージャまたはWebブラウザが動作している管理用PCでは、次のことが可能になります。

- ホスト サーバのコンソールに対するリモートからのアクセス（テキストモード、リモート制御ソフトウェアを使用したグラフィックス モード画面、キーボードのフル操作など）
- リモートからのホスト サーバの再起動
- リモートInsightボードからサーバ上のCompaq Insight マネジメント エージェントへのアクセス
- ホスト サーバの状態に関係なくリモートInsightボードからアラートを受信する
- リモートInsightボードのファームウェアによって提供されるその他の機能の使用

特長

リモートInsightボードには、次のような特長があります。

- **ハードウェアベースのリモート コンソール**- リモートInsightボードは、ホストサーバとは独立して動作し、ホストのオペレーティング システムの状態に関係なくホストを制御できます。
- **再起動制御**- ホストのオペレーティング システムを安全にシャットダウンしてウォーム リブートを開始できます。ホストのオペレーティング システムが応答中でない場合、コールド リブートを実行できます。
- **サーバの障害アラート通知**- リモートInsightボードは、サーバの電源が落ちたこと、またはオペレーティング システムが応答を停止したあとに自動サーバ復旧 (ASR) 回路でリセットされたことを検出できます。どちらの場合も、指定された1つ以上のポケットベルまたは管理用PCにアラートを送信できます。
- **英数字および数値ポケットベル通知機能**- この機能をサポートする地域では、数値コードではなくわかりやすいメッセージをポケットベルに送信できるという利点があります。また、標準のポケットベルもサポートします。
- **Compaq Insightマネージャとの統合**- リモートの管理用PCで実行されるCompaq Insightマネージャは、Insightマネジメント エージェントへのアクセスなどのリモートInsightボードのすべての機能を利用できます。これらの機能によって、アウトバンドのSNMPを完全に管理できます。
- **オンボードのNICを経由したLANアクセス**- リモートInsightボード上の10/100MbのNICはTCP/IPをサポートするため、電話回線を使用しないでネットワークを経由してリモートInsightボードに接続できます。NICは、10Mbと100Mbを自動的に検出できます。
- **モデム共有サポート**- リモートInsightボードのファームウェアでモデム共有デバイスを使用できるため、一室に複数のサーバが設置された場所で使用する電話回線数を減らすことができます。モデム共有デバイスを使用できるのは、シリアルのリモートInsightボードだけです。
- **Windows NTサーバ用のグラフィカル リモート アクセス**- Carbon CopyやpcANYWHEREなどのリモート アクセス ソフトウェアを使用すると、リモートでグラフィカルな画面を表示して、リモートInsightボードからWindows NTを制御できます。
- **Internet ExplorerおよびNetscape Navigatorのブラウザ サポート**- リモートInsightボードの機能はすべて、ブラウザ ソフトウェアInternet ExplorerまたはNetscape Navigatorの最新バージョンを使用して、使い慣れたハイパーテキスト形式のグラフィカルなページ操作でアクセスできます。

- **PPPダイヤルイン アクセス**- Webブラウザと組み合わせたRASまたはダイヤルアップ ネットワークでリモートのPCを接続して、リモートInsightボードのすべての機能を使用できます。
- **リセットおよび障害シーケンスの再生** - リモートInsightボードに保存されているビデオ テキスト シーケンスを使用することによって、サーバのスタートアップ シーケンスとシャットダウン シーケンスを再生できます。これらのシーケンスには、システムおよびオペレーティング システムのすべてのエラー メッセージやNetWareのアベンド画面およびWindows NTのブルー スクリーンなどの重大なエラーの画面があります。最近2回までのサーバのリセットおよび最後に起きたサーバの障害を表示できます。
- **バッテリー バックアップ** - サーバの電源が落ちた場合、リモートInsightボードは、バックアップ バッテリーを使用してユーザにアラートを送信し、ダイヤルアップ トラブルシューティング サポートを提供できます。

重要: 日本語で使用する場合のページング アラートの使用上の制限について
Compaq リモートInsightボードでは、ページャ（ポケットベル）へDTMF数値またはTAP（Telocator Alphanumeric Protocol）英数字仕様のアラートを送信することができますが、これらの実際の使用には、ご利用のページング サービス（加入しているポケットベル サービス）会社がこれらの方式をサポートしている必要があります。また、DTMF数値でのご使用の際にもご利用になるサービス会社との接続について確認が必要です。

サポートされるハードウェア およびソフトウェア

リモートInsightボードは、以下のコンパック製サーバで使用できます。

- Compaq ProLiantサーバ（ProLiant 400を除く）
- Compaq ProSigniaサーバ（Prosignia Server 720を除く）

リモートInsightボードは、以下のネットワーク オペレーティング システムで使用できます。

- NetWare 3.12 plus enhancement pack/3.2/4.10/intraNetWare、SMP
4.1/NetWare5.0/SMP intraNetWare
- Microsoft Windows NT 3.51およびWindows NT 4.0
- SCO製品
 - UnixWareバージョン2.10、2.11および7

モデル

リモートInsightボードには複数のモデルがあり、特定の地域の電話システム用の仕様になっているモデルもあります。これらのモデルを表1-1および表1-2に示します。

表1-1
リモートInsightボードのモデル

製品番号	コネクタ	モデム
294013-B25	LANのみ	
294013-002 ¹	LANおよびモデム	北米
294013-B24	LANおよびシリアル	
294013-B32 ²	LANおよびモデム	ヨーロッパ

¹カナダ、香港、米国、メキシコ、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、ウルグアイ、ベネズエラ、アルゼンチン、チリ、ペルーで販売されています

²オーストラリア、オーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシア、アイスランド、アイルランド、イタリア、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スペイン、スウェーデン、スイス、英国で販売されています

シリアル モデルは、同梱のシリアル ポート アダプタ ケーブルを使用して外付モデムをリモートInsightボードのシリアル ポートに接続することによって使用します。

表1-2
リモートInsightボード (日本向けモデル)

製品番号	コネクタ	モデム
294013-294	LANおよびモデム	日本
294013-295	LANおよびシリアル	

シリアル モデルは、同梱のシリアル ポート アダプタ ケーブルを使用して外付モデムをリモートInsightボードのシリアル ポートに接続することによって使用します。

リモートInsightボード/PCI オプション キットの内容

リモートInsightボード オプション キットには、以下の品目が同梱されています。

- リモートInsightボード
- キーボード用の"Y"ケーブル
- シリアル ポート アダプタ ケーブル (シリアル モデルのみ)
- 電話ケーブル (モデム モデルのみ)
- PCIエクステンダ ブラケット
- 『インストレーションの概要』 ポスター
- 『CompaqリモートInsightボード/PCIインストレーション ガイド』
- Compaq Management CD
- Compaq SmartStart and Support Software CD

動作の概要

図1-1は、リモートInsightボード/PCIとサーバ、周辺装置および外部のシステムとの関係を示しています。

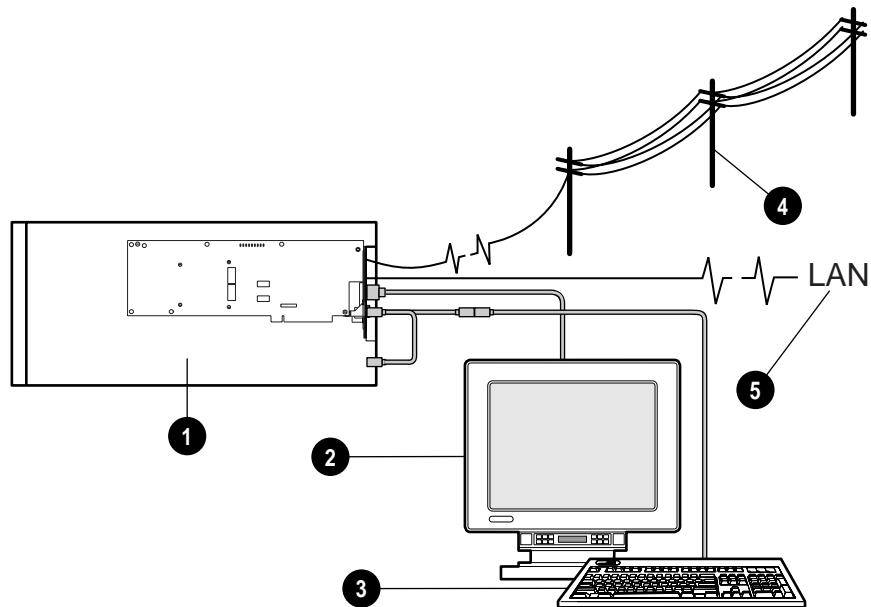


図1-1. リモートInsightシステムの関係

- ① サーバにインストールされたりリモートInsightボード
- ② リモートInsightボードに接続されたモニタ
- ③ Yケーブルを使用してリモートInsightボードとサーバに接続されたキーボード
- ④ リモートInsightボードとのモデム/シリアル接続を経由して接続された電話システム
- ⑤ リモートInsightボード上のNICを経由して接続されたLAN

リモートInsightボードには、キーボードおよびVGAモニタの回路とコネクタがあります。リモートInsightボードをインストールするときに、キーボードとモニタのケーブルをリモートInsightボードのコネクタに再接続します。通常の動作中、リモートInsightボードはキーボード信号をサーバに送って、サーバのプライマリビデオコントローラとして機能します。これによって、次のことが可能になります。

- ユーザが意識することなく、リモートのキーボードをサーバのキーボードとして使える
- ビデオキャプチャを後で再生するために、Insightボードのバッテリーバックアップ式メモリに保存する
- ビデオ信号をサーバのモニタとリモートユーザのモニタに同時に送信する

Compaq Insightマネージャによるアクセス

通常の動作中、Compaq Insightマネージャを使用して電話回線またはEthernetネットワーク接続を経由してダイヤルインすることによってリモートInsightボードとの接続を確立できます。Insightマネージャのタスクリストで[接続]オプションを選択すると、ダイヤルイン機能を実行できます。

[接続]機能を使用してリモートInsightボードにダイヤルインするか、またはネットワーク接続を経由して接続するかに関係なく、次の機能を使用できます。

- **ホストのオペレーティングシステムが実行中の場合** - Compaq Insightマネージャのすべての機能を使用できます。
- **ホストのオペレーティングシステムが実行中でない場合** - リモートInsightボードは、リモートコンソール、リモートリブートおよびその他の機能を提供します。

Windows NTに対するグラフィカル リモートアクセス

pcANYWHEREなどのリモートアクセスソフトウェアを使用すると、リモートでコンソール画面を表示して、ローカルのコンソールを使用する場合と同様にリモートInsightボードからWindows NTを制御できます。

ブラウザサポート

リモートInsightボードの機能はすべて、Internet Explorerバージョン4.x以上またはNetscape Navigatorバージョン4.05以上で使用できます。このため、使い慣れたハイパーテキスト形式のグラフィカルなページ操作によってリモートInsightボードの機能に簡単にアクセスできます。ブラウザを使用することによって、イベントログおよびステータス情報の表示、リセットおよび障害シーケンスの再生、サーバのリセット、サーバのリモート制御およびユーザログインとアラート設定の変更が可能になります。

PPPダイヤルイン アクセス

RASまたはダイヤルアップ ネットワークを使用すると、PPP接続を経由してリモートInsightボードにアクセスできます。さらに、内蔵NICを経由して接続を開始できます。これによって、ボードのWebページにアクセスしたり、サーバのテキストベースのリモート コンソールを操作したりできます。接続が確立されると、リモートInsightボードは、Compaq Insightマネージャに対するSNMPアップデートおよびトラップのホスト、ブラウザのホスト、リモート コンソールのホストおよびpcANYWHERE接続のホストをすべてシームレスかつ同時に実行します。

アラート

サーバに障害が発生した場合、リモートInsightボードはアラートを生成できます。このような障害としては、自動サーバ復旧 (ASR) イベントやサーバの電源障害などがあります。さらに、リモートInsightボードは、Insightマネジメント エージェントが生成するすべてのアラートをリモートの管理用PCに転送します。また、リモートInsightボードは、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) トラップを使用して、リモートInsightボードが生成するアラートを数値または英数字ポケットベルまたはリモートの管理PCに送信できます。SNMPは、Compaq Insightマネージャやその他の業界標準ネットワーク管理アプリケーションで使用されるネットワーク管理プロトコルです。

セキュリティ機能

リモートInsightボードには、パスワードによるアクセス機能に加えてオプションのダイヤルバック セキュリティ機能があります。リモート サイトからリモートInsightボードにダイヤルインすると、リモートInsightボードはユーザをログアウトしてから、あらかじめ設定された番号にダイヤルして接続を完了します。ダイヤルバック セキュリティは、全体または個々のユーザ単位で適用できます。

リモートInsightボードのユーザごとに異なるアクセス レベルを指定できます。ユーザをスーパーバイザ ステータスにでき、その場合、ユーザは他のユーザの作成、変更または削除を行うことができます。オプションで、スーパーバイザ以外のユーザがリモートInsightボードのログイン、サーバのリモート コンソールおよびボードのリモート リポート機能を使用することを禁止できます。また、すべてのポケットベル通知またはアラートを受信しなければならないが、サーバに着信アクセスできないユーザまたはリモート コンソールに対するログイン アクセスも禁止できます。

ログインの試行がトラッキングされ、ログインの失敗はログに記録されます。アラートを生成して、ログインに失敗したときにCompaq Insightマネージャを実行しているリモートの管理用PCにアラートを送信するオプションがあります。

バッテリー バックアップ

リモートInsightボードのバッテリー バックアップ機能は、サーバの電源が切れている場合およびホストの電源障害時にリモートInsightボードに電源を供給して、アラートをポケットベルやリモートの管理用PCに送信できるようにします。トラブルシューティングおよび障害分析のために、ダイヤルイン アクセスがサポートされます。完全に充電されたオンボード バッテリーを使用した場合、サポートの電源を切るか、停電した後、少なくとも30分間は完全に動作できます。

第2章

リモートInsightボード/PCIの インストール

この章について

この章では、Compaq リモートInsightボード/PCIを以下のコンパック製サーバにインストールする方法について説明します。

- Compaq ProLiantサーバ
- ラックマウント型Compaq ProLiantサーバ
- Compaq ProSigniaサーバ



警告: Compaq ProLiantサーバは、内部で高温が発生する場合があります。カバーを取り外したり、危険を防止するために装備されているインターロック機能を無効にしないようにしてください。前面のホットプラグ ベイ以外の部分にアクセサリやオプションを取り付ける場合は、コンパック製品販売店またはコンパック正規保守サービス会社にご相談ください。



警告: 高電圧による感電を防止するために、ProLiantサーバにはセーフティインターロックが装備されています。このセーフティ インターロックを無効にしないようにしてください。アクセス カバーを取り外すと、カバーを正しく取り付けるまで電源は入りません。サーバに同梱されているマニュアルを参照してください。

この章では、リモートInsightボード/PCIをサーバに接続する方法についても説明します。

リモートInsightボード/PCIのインストール

以下の項では、リモートInsightボード/PCIをサーバにインストールするプロセスを手順に従って説明します。

- リモートInsightボード/PCIの準備
- 使用可能なスロットの決定
- サーバの分解
- ボードをサーバにインストールする
- サーバの再組み立て

リモートInsightボード/PCIの準備

リモートInsightボード/PCIをサーバにインストールする前に、バッテリー ケーブルが図2-1で示すとおりに接続されていることを確認します。

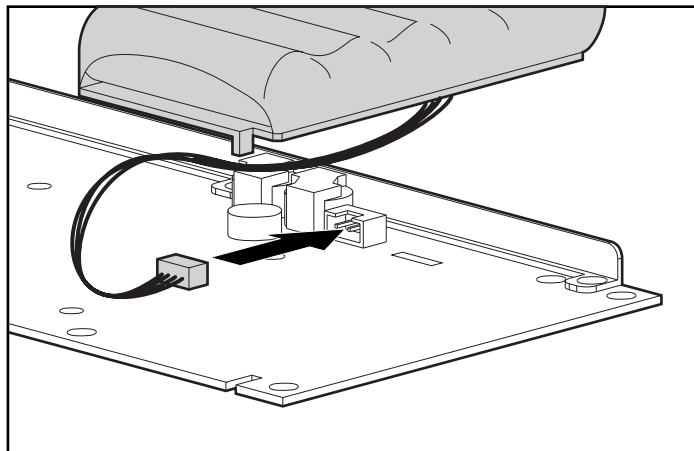


図2-1. バッテリー ケーブルを接続する

注: アップグレード用のモデムまたはシリアル カードをリモートInsightボード/PCIにインストールする場合、この章の「PCカードのアップグレード」の項を参照してください。

スロットの選択

サーバのスロットの中で、表2-1に示されている未使用のPCIスロットを選択します。ご使用のサーバが表2-1にない場合、コンパックのWebサイトのサーバ マネジメントのページ (<http://www.compaq.com/sysmanage/>) にある最新の表を参照してください。サーバには、使用できる最新版のシステムROMもインストールされていなければなりません。システムROMの更新手順については、コンパックのWebサイト (<http://www.compaq.com/>) にアクセスして、

[Support]、[Compaq SoftPaqs]、[Servers]の順にメニューを選択した後、ご使用のオペレーティングシステムを選択して下さい。

表2-1
サーバのロットのマトリクス

サーバ名	ロット
ProSignia 200	任意のPCIロット
ProSignia 300	任意のPCIロット
ProSignia 500	任意のPCIロット
ProLiant 800	任意のPCIロット
ProLiant 800 350e、400、450	1、2
ProLiant 800 6/350e、6/400	1、2
ProLiant 850R	任意のPCIロット
ProLiant 1200	4、5、6
ProLiant 1500	任意のPCIロット
ProLiant 1500R	任意のPCIロット
ProLiant 1600	4、5、6
ProLiant 1850R	任意のPCIロット
ProLiant 2500	4、5、6
ProLiant 3000	1、2、3、4
ProLiant 5000	5、6、7、8
ProLiant 5500 Pentium Pro	1、2、3、4
ProLiant 5500 Xeon	6、7
ProLiant 6000 Pentium Pro	3、4、5、6
ProLiant 6000 Xeon (Cirrus Logicビデオチップ搭載モデル)	3、4
ProLiant 6000 Xeon (ATI Rage IIcビデオチップ搭載モデル)	3、4
ProLiant 6500 Pentium Pro	1、2 (非ホットプラグ)
ProLiant 6500 Xeon	5、6

続く

表2-1
サーバのロットのマトリクス 続き

サーバ名	スロット
ProLiant 7000 Pentium Pro	3、4、5、6 (非ホットプラグ)
ProLiant 7000 Xeon (Cirrus Logicビデオ チップ搭載モデル)	3、4
ProLiant 7000 Xeon (ATI Rage IIcビデオ チップ搭載モデル)	3、4

注: ご使用のサーバが表にない場合、コンパックのWebサイトのサーバ マネジメントのページ (<http://www.compaq.com/sysmanage>) を参照してください。リモートInsightボード/PCIのセクションは、左側のナビゲーション バーにあります。

PCIエクステンダ ブラケットのインストール

リモートInsightボードをEISA/PCIスロットにインストールする場合は、必ずPCIエクステンダ ブラケットをボードに取り付けてから、インストールしてください。PCI専用スロットにインストールする場合は、このブラケットを取り付ける必要はありません。

1. ボードを、図2-2のように、サイド コネクタ ブラケットを左に、ボード エッジ コネクタを下にして、持ちます。
2. エクステンダのネジ穴を、ボードの右端の穴に合わせます。エクステンダは、ボードの右端よりも外にはみ出ます。ボードの裏からネジを差し込んで締めます。

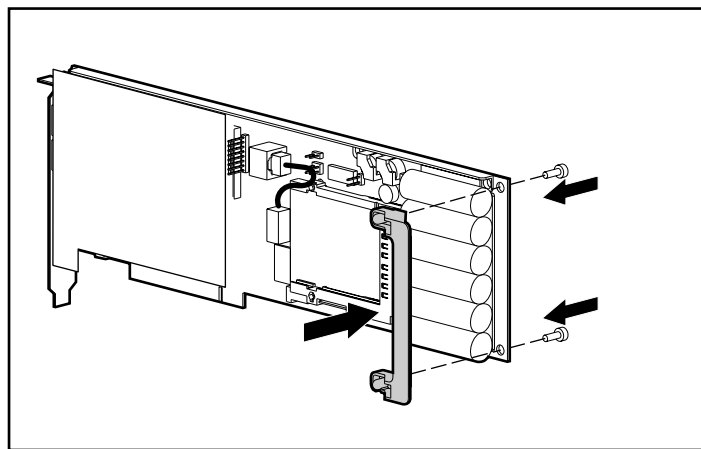


図2-2. PCIエクステンダ ブラケットの取り付け

サーバの分解

サーバを分解してオプション ボードをインストールするには、サーバに付属のマニュアルの指示に従ってください。

ボードをサーバにインストールする

1. 空いているサポートされたスロット（表2-1参照）を選択し、トルクス ドライバ（T-15）を使用してスロット カバーを取り外します。



注意: 静電気放電（ESD）によって電子部品が損傷する場合があります。必ず、正しくアースを行ってからこの手順を開始してください。ESDについては、付録Bを参照してください。

2. リモートInsightボードをスロットにしっかりと押し込みます。
3. ボードを固定ネジで固定します。
4. VGAコントローラ カードをインストールしている場合、リモートInsightボード上のVGAコントローラを設定するには、ここでインストールしているVGAコントローラを取り外す必要があります。

注: ProSignia 200やProLiant 800などの一部のコンパック製サーバには、PCIベースのVGAコントローラが内蔵されています。リモートInsightボード上のVGAコントローラを設定するには、これらのコントローラを取り外す必要があります。

サーバの再組み立て

サーバを元に戻すには、サーバのマニュアルの指示に従ってください。

リモートInsightボード/PCIの接続

CompaqリモートInsightボードをサーバにインストールした後、接続しなければならない部分がいくつかあります。リモートInsightボードに装備されているコネクタを図2-3に示します。

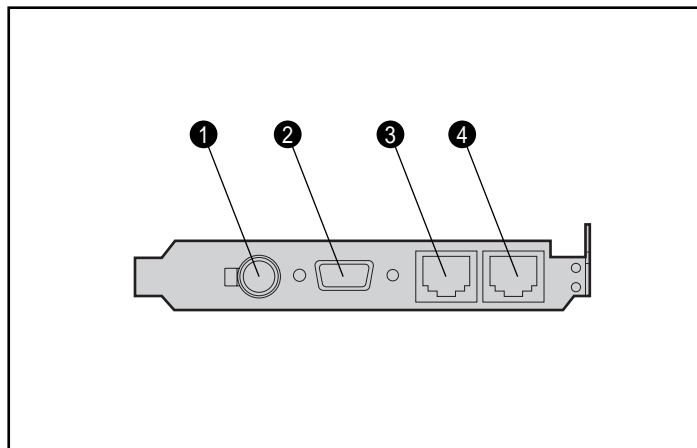


図2-3. リモートInsightボードのコネクタ

- ❶ キーボード コネクタ
- ❷ ビデオ コネクタ
- ❸ LANコネクタ
- ❹ モデム/シリアル コネクタ



警告: リモートInsightボードがシリアル ポートを装備したモデルの場合、感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話用コードを"PHONE/SER"というラベルの付いたモジュラ ジャックに直接接続しないでください。

キーボード ケーブルの接続

キーボードをリモートで制御するには、リモートInsightボードを経由してキーボード信号を送らなければなりません。これによって、リモートInsightボードは、キーボード ケーブルを経由して、リモートのユーザからのキー入力をサーバに送信できます。

1. キーボードをサーバから取り外します。
2. 図2-4で示すように、リモートInsightボード/PCIオプション キットに同梱されている"Y"ケーブルを使用してキーボードを接続します。"Y"ケーブルの真ん中のコネクタをリモートInsightボードに接続します。

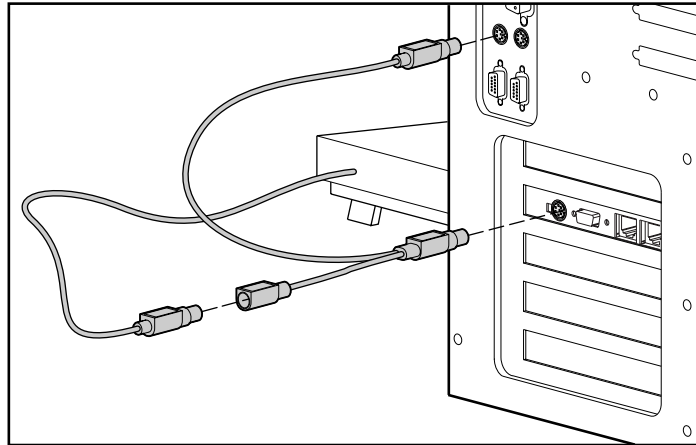


図2-4. キーボード用の"Y"ケーブルを接続する

モニタ ケーブルの接続

リモートInsightボードには、VGA互換のビデオ コントローラを使ってリモート コンソール操作ができるように、専用のVGAコントローラが内蔵されています。このため、モニタをリモートInsightボードに接続する必要があります。

1. モニタ信号ケーブルをサーバのモニタ コネクタから抜き取ります。
2. モニタ ケーブルをリモートInsightボードのモニタ コネクタに接続します。

シリアルケーブルの接続

リモートInsightボードにシリアルポートが装備されている場合、電話用コードを外付モデムの電話コネクタに接続します。



警告: リモートInsightボードがシリアルポートを装備したモデルの場合、感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話用コードを"PHONE/SER"というラベルの付いたモジュラージャックに直接接続しないでください。

シリアルリモートInsightボードには、シリアルポート用のコンビネーションRJ45コネクタが装備されています。このポートを使用するには、図2-5で示すように、ボードに付属のRJ-45シリアル-9ピン接続用DINケーブルをPHONE/SERというラベルの付いたRJ45シリアルコネクタに接続します。

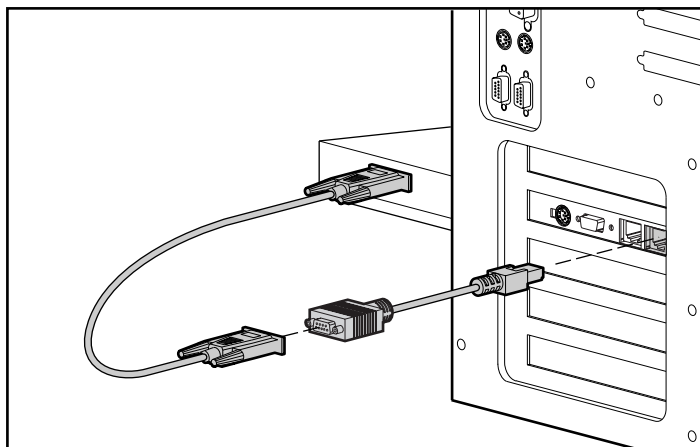


図2-5. シリアルケーブルを接続する

シリアルバージョンのリモートInsightボードを使用すると、選択した外付モデムをシリアル接続できます。

電話ケーブルの接続

リモートInsightボードがモデムを内蔵しているモデルの場合、電話用コードをPHONE/SERというラベルの付いたRJ45コネクタに接続します。

モデムには、RJ11ケーブルが1本同梱されています。これを使用してモデムを公衆電話回線に接続します。使用される国によっては、別アダプタが必要になる場合があります。

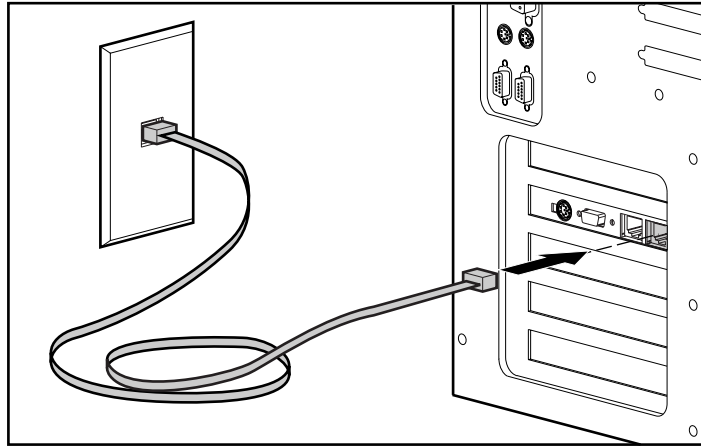


図2-6. 電話用コードを接続する

重要: モデムは、アナログの公衆電話回線（PSTN）だけに接続できるように設計されています。

重要: このモデムは、他の電話機に直列接続できません。

注: ケーブルをコネクタコード（N）付きのモデムからコンセント（TAE 6）のコードNに接続してください。

LANケーブルの接続

TCP/IPを使用し、10Mbまたは100Mb Ethernetネットワークを経由してリモートInsightボードにアクセスするには、LANケーブルでリモートInsightボードのLANコネクタ（三角形の内側に感嘆符のあるマークが付いたコネクタ）をネットワークのハブまたはスイッチのLANジャックに接続します。

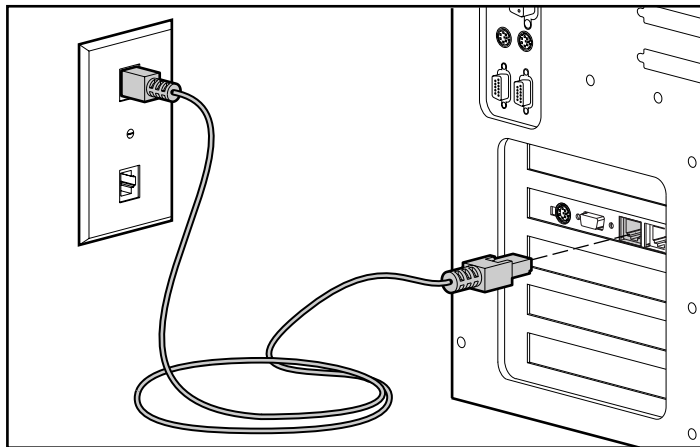


図2-7. LANケーブルを接続する

リモートInsightボードのRJ-45コネクタの近くにある2つのLEDは、サーバの電源が入っているときにネットワークの接続状態を示します。

緑色のLEDは、Ethernetハブとリンクされている場合に点灯します。黄色のLEDの点滅によってネットワークトラフィックを示します。

サーバの電源コードの接続

リモートInsightボードで使用するケーブルを接続した後、以下の手順に従って電源コードを接続し、サーバの電源を入れます。

1. 電源コードをサーバに接続した後、アース付きコンセントにも接続します。



警告: 感電や装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

電源コードのアース付きプラグを無効にしないでください。アース付きプラグは、安全上重要な機能です。

電源コードは、いつでも簡単に手が届くところにあるアース付きコンセントに接続してください。

サーバの電源を切る場合、電源スイッチをOFFにした後、**電源コード**をコンセントまたはサーバから抜き取ってください。

2. サーバに接続されているすべての周辺装置の電源を入れます。
3. サーバの電源を入れます。

PCカードの交換またはインストール

リモートInsightボード/PCIのPCカードを交換するには、以下の手順に従ってください。

1. サーバを分解してオプション ボードをインストールするには、サーバに付属のマニュアルの指示に従ってください。



注意: 静電気放電 (ESD) によって電子部品が損傷する場合があります。必ず、正しくアースを行ってからこの手順を開始してください。静電気放電については、付録Bを参照してください。

2. リモートInsightボードをサーバから取り外します。
3. 図2-8で示すように、ドータ ボードをリモートInsightボードに接続している3本のネジを取り外します。

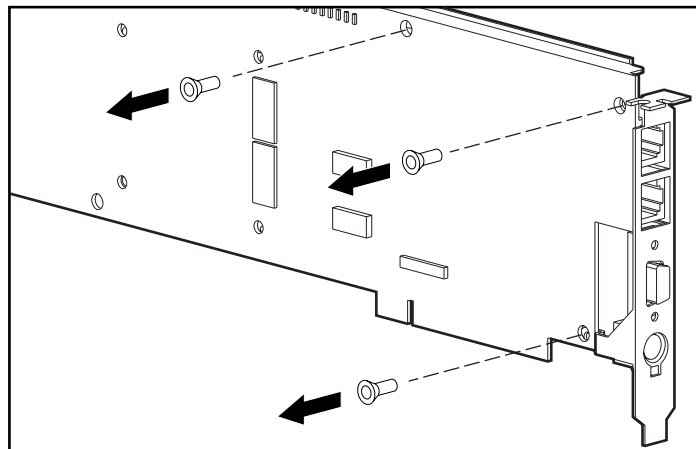


図2-8. ドータ ボードを取り外す

4. コネクタを外して、ドータ ボードをリモートInsightボードから取り外します。

5. すでにPCカードがリモートInsightボードにインストールされている場合は、ケーブルを取り外した後、イジェクト ボタンを押してカードをコネクタから取り出します。図2-9を参照してください。

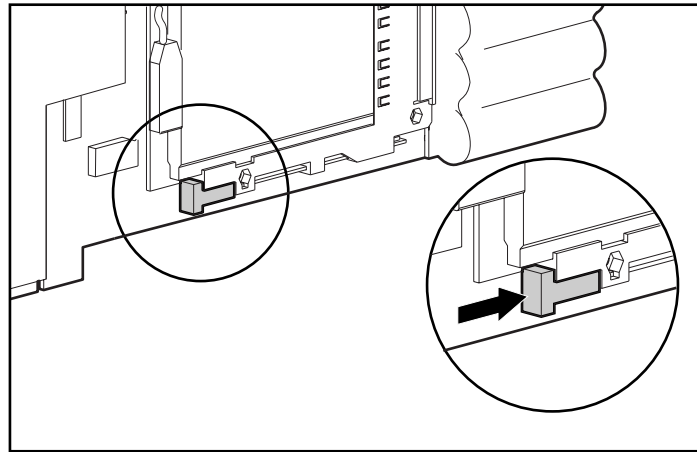


図2-9. モデムまたはシリアル カードを取り外す

6. 新しいPCカードをスロットに挿入します。
7. モデム ケーブルでPCカードとボード上のRJ45コネクタを接続します。
8. ドータ ボードをリモートInsightボードに接続するコネクタを慎重に元に戻します。
9. 手順3で取り外したネジでドータ ボードを固定します。
10. リモートInsightボードをしっかりと押してサーバに挿入し、固定用ネジでボードを固定します。
11. サーバを元に戻すには、サーバに付属のマニュアルの指示に従ってください。
12. ケーブルをリモートInsightボードに接続します。ケーブルを正しく接続するには、この章の「リモートInsightボード/PCIの接続」の項を参照してください。



警告: リモートInsightボードがシリアル ポートを装備したモデルの場合、感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話用コードを"PHONE/SER"というラベルの付いたモジュラ ジャックに直接接続しないでください。

リモートInsightボード/PCI ソフトウェアの設定

ソフトウェアのインストールおよび設定

リモートInsightボードをサーバにインストールして（第2章参照）周辺装置との接続を完了したら、リモートInsightボードを設定しなければなりません。次の2通りの設定方法があります。

- **SmartStartによる設定:** この方法は、すでにリモートInsightボードがインストールされているサーバを新規にセットアップする場合に使用します。インストールとセットアップは、SmartStartを使用して実行されます。Windows NTが動作しているサーバの場合、SmartStartを使用した後、リモートInsightボード用のドライバ、RASおよびService Pack 3以上もインストールする必要があります。これらのコンポーネントのインストールを簡単にするためのウィザードが、SmartStartによってハードディスクドライブにインストールされます。Windows NTにログオンしている場合は、[スタート]、[プログラム]、[Compaq製品およびサービス]、[RIBインストール]の順に選択して、リモートInsightボード インストール ウィザードを実行してください。
- **システム コンフィギュレーション ユーティリティによる設定:** この方法は、すでにセットアップされた既存のサーバにリモートInsightボードをインストールする場合に使用します。システム コンフィギュレーション ユーティリティを使用した後、ご使用のオペレーティング システム用のリモートInsightボード用のドライバをインストールする必要があります。

ご使用のサーバのオペレーティング システムに適したデバイス ドライバをインストールするには、以下の項を参照してください。

- 3-6ページの「NetWareドライバのサポート」
- 3-7ページの「Windows NTドライバのサポート」
- 3-9ページの「SCO UnixWareドライバのサポート」

Windows NTが動作するサーバで、リモートInsightボードを使用してグラフィカルなリモート制御セッションを確立する場合、pcANYWHERE 7.5以上をインストールして設定する必要があります。これらの手順については、3-9ページの「リモート制御ソフトウェアのインストールと設定」の項で説明します。

注: 一部のコンパクト製サーバのシステム ボードには、特定のセキュリティ設定を制御するDIPスイッチが内蔵されています。サーバにコンフィギュレーション ロック スイッチが装備されている場合、設定を開始する前に、必ず、このスイッチをOFF（アンロック）に設定してください。コンフィギュレーション ロック スイッチの詳細については、サーバに付属のリファレンス ガイドの「セキュリティ」の章を参照してください。設定が完了したら、スイッチをON（ロック）の位置に戻してください。

使用する設定方法に関係なく、必要な設定パラメータを知っておく必要があります。リモートInsightボードの設定ワークシート（表3-1）には、最初にコンフィギュレーションするときに設定または変更しなければならないパラメータとそのデフォルト値の一覧が表示されています。ご使用の環境に合わせて変更しなければならないことがわかっている場合を除いて、表に示されていないパラメータはデフォルト値のままにしておいてください。SmartStartまたはシステム コンフィギュレーション ユーティリティの実行を開始する前に、インストール環境に適した値をワークシートに記入してください。パラメータについては、付録Dで説明しています。

表3-1
リモートInsightボードの設定ワークシート

パラメータ	デフォルト値	使用する値
サーバの識別		
サーバ名		
サーバID		
ネットワーク インタフェース		
ステータス	無効	
IPアドレス	0.0.0.0	
デフォルトのゲートウェイ	0.0.0.0	
サブネット マスク	255.255.255.0	
モデム設定 (モデム モデルのみ)		
国別コード	US	
NTグラフィカル リモート コンソール		
NTグラフィカル リモート コンソール	無効	
ユーザの設定		
ユーザ1		
ユーザ名		
ログイン名		
パスワード		
ダイヤルバック番号		
ポケットベルの種類	標準DTMF数値	
ポケットベル番号		
ポケットベルID/PIN		
PPP/SNMP電話番号		
SNMP IPアドレス		
セキュリティ アクセス		
受信アラート数		
キーボード	日本語	

SmartStartによる設定

リモートInsightボードを内蔵した新しいサーバをセットアップする場合、この方法を使用します。

1. SmartStart and Support Software CDをサーバのCD-ROMドライブに挿入して、サーバの電源を入れます。

2. 国、キーボードおよび日付/時刻の入力画面が終わると、SmartStartのインストール方法の選択画面が表示されます。
3. [自動インストール]を選択したあと、[開始]ボタンを選択します。
4. 画面上の指示に従ってサーバを設定します。
5. [リモートInsightボード]画面が表示されたら、表3-1のパラメータを参照してこれらの画面を完成します。

重要: リモートInsightボードに接続するには、[ユーザの設定]セクションで1つ以上のユーザを設定する必要があります。

6. 現在の画面の状況依存ヘルプを表示するには、**F1**キーを押します。また、ポイント ツー ポイント プロトコル (PPP) の設定については、Compaq Management CDに入っている『Compaq Insight Asynchronous Management ユーザ ガイド』を参照してください。PPPについては、"Asynchronous Management"の下のCompaq Insightマネージャのヘルプ メニューにあるヘルプ ファイルにも同一の情報が入っています。
7. [設定の終了]ダイアログ ボックスが表示されたら、自動サーバ復旧 (ASR) とリモートInsightボードの設定パラメータを確認します。変更が必要な画面に戻るには、[戻る]ボタンを使用します。
8. ASRとリモートInsightボードがご使用のシステム構成に対して正しく設定されている場合 (表3-1参照) は、[終了]ボタンを選択します。

サーバがWindows NTを実行している場合、必ず、SmartStartを使用した後にRAS、リモートInsightドライバおよびService Pack 3以上を組み込んでください。これらのコンポーネントのインストールを簡単にするためのウィザードが、SmartStartによってハードディスクドライブにインストールされます。Windows NTにログオンしている場合は、[スタート]、[プログラム]、[Compaq製品およびサービス]、[RIBインストール]の順に選択して、リモートInsightボード インストール ウィザードを実行してください。

サーバが、Windows NT以外のオペレーティング システムを実行している場合は、SmartStartのプロセスが完了した後、サーバとリモートInsightボードを動作可能な状態になります。リモートInsightボードの使い方については、Compaq Management CDに収録されているリモートInsightボードのオンライン ヘルプを参照してください。

システム コンフィギュレーション ユーティリティによる設定

あらかじめセットアップされた既存のサーバにリモートInsightボードをインストールするには、この方法を使用します。

1. サーバの電源を入れます。
2. 画面の右上隅でカーソルが点滅したら、**F10**キーを押してシステム コンフィギュレーション ユーティリティを起動します。
3. [システム コンフィギュレーション]画面から[ハードウェアの設定]、[ハードウェア設定の参照/変更]、[設定の参照/変更]を選択して、ボードのリスト内で[CompaqリモートInsightボード]セクションを見つけます。
4. 表3-1を参照しながらパラメータの値を入力します。

重要: リモートInsightボードに接続するには、[ユーザの設定]セクションで1つ以上のユーザを設定する必要があります。

5. 表3-1のパラメータ値を入力した後、[コンピュータの設定手順]メニューが表示されるまで**F10**キーを押します。
6. [保存/終了]オプションを強調表示して**Enter**キーを押します。

システム コンフィギュレーション ユーティリティを使用してリモートInsightボードをサーバに追加した後、オペレーティング システムに適したリモートInsightドライバをインストールする必要があります。ご使用のオペレーティング システムに適したドライバをインストールする手順については、次の項を参照してください。

リモートInsightボード デバイス ドライバのインストール

システム ソフトウェアとSNMP Insightエージェントは、リモートInsightボード デバイス ドライバを使って、リモートInsightボードと通信できます。リモートInsightボード用のドライバについては、次ページ以降でサポートされるオペレーティング システムごとに説明します。

以下の項では、Novell NetWare、Windows NTおよびSCO UnixWareのリモートInsightボード用ドライバのインストール手順について説明します。SmartStart and Support Software CDには、これらのドライバの最新バージョンが入っています。

最新のドライバとエージェントは次のコンパクのWebサイトからも入手できます。

<http://www.compaq.com>または<http://www.compaq.co.jp>

NetWareドライバのサポート

NetWareのリモートInsightボード ドライバはCPQRI.NLMです。サーバヘルスドライバCPQHLTH.NLMの後にリモートInsightドライバをロードすると、CPQRIは初期化中にインテグレートド マネジメント ログまたはクリティカル エラー ログ (サーバで提供されるサポートに基づきます) の内容をリモートInsightボードにコピーします。リモートInsightボードにコピーすることで、サーバが停止した場合でも、インテグレートド マネジメント ログまたはクリティカル エラー ログからリモートInsightにコピーした内容をリモートからアクセスできます。この後、イベントが発生した場合、CPQRI.NLMに通知されて、CPARI.NLMがログのこのコピーを更新します。

CPQRI.NLMをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. SmartStart and Support Software CDをサーバのCD-ROMドライブに挿入します。
2. 次の例のようにMAPコマンドを実行して、サーバへのパスがあるかどうかを確認します。

```
MAP G:=SYS:SYSTEM
```

3. 次の例のようにNetWareのリモートInsightボード ドライバをサーバにコピーします。

```
COPY D:¥CPQSUPSW¥NSSD¥SRV_MGMT¥CPQRI.NLM G:
COPY D:¥CPQSUPSW¥NSSD¥SRV_MGMT¥CPQRIDISP.NLM G:
```

4. サーバからログアウトしてサーバのコンソールに戻り、NetWareのリモートInsightボード ドライバのインストールを完了します。
5. NetWareのインストール プログラムまたはNetWare 5用のNWCONFIGを使用してAUTOEXEC.NCFファイルを変更し、NetWareサーバを再起動するたびにドライバがロードされるように以下のLOADコマンドを追加します。サーバでサーバヘルス ドライバがサポートされていない場合、これをロードする必要はありません。

```
LOAD CPQHLTH
LOAD CPQRI
```

CPQRIの初期化エラーと修正方法については、Compaq Management CDに収録されているリモートInsightボードのオンライン ヘルプを参照してください。

Windows NTドライバのサポート

CompaqリモートInsightボードをサポートするために必要なデバイス ドライバと自動サーバ復旧 (ASR) 機能は、Compaq Windows NT サポート ソフトウェア ディスケット (NT SSD) バージョン2.08以降に入っています。サーバがWindows NT 3.51を実行している場合、NT SSDバージョン1.30を使用してください。前の「ディスクへのソフトウェアのコピー」の項で説明した手順に従って、これらのディスクを作成できます。

リモートInsightボード インストール ウィザードを含むSoftPaqをコンパクのWebサイトからダウンロードできます。このウィザードを使うと、Windows NTサーバに必要な追加のドライバを簡単にインストールすることができます。コンパクのWebサイト (<http://www.compaq.com/>) にアクセスして、[Support]、[Compaq SoftPaqs]、[Servers]の順にメニューを選択した後、ご使用のオペレーティングシステムを選択してください。

インターネットを利用して、上記Webサイトにアクセスできない場合は、以下の手順に従って、インストール ウィザードを使わずに必要なドライバをインストールしてください。

関連ファイル

リモートInsightボードをサポートするファイルは、次のとおりです。

<i>CPQRIB.SYS</i>	Compaq リモートInsightボード ドライバ
<i>RIBWAN.SYS</i>	Windows NT WANドライバ

次の項の手順に従うと、これらのすべてのドライバを組み込むか、または更新できます。

Compaq リモートInsightボード ドライバのインストールまたは更新

SmartStart and Support Software CD内の¥CPQSUPSW¥NTSSDJディレクトリ内にあるSETUPプログラムは、Windows NTデバイス ドライバの組み込み、更新または削除を実行します。SETUPプログラムはドライバの組み込みまたは更新を実行する場合、該当するドライバをシステムにコピーし、そのドライバを使用できるようにシステムを設定します。さらに、セットアップ プログラムは、ドライバの現在のステータスとバージョン情報を提供します。

リモートInsightボード ドライバを更新する場合、リモートInsightボードが最新バージョンのリモートInsightボード ファームウェアで動作していることを確認してください。最新のファームウェアは、コンパクのWebサイト (www.compaq.com) で提供されているROMPaqに入っています。[Support]、[Compaq SoftPaqs]、[Servers]の順にメニューを選択した後、ご使用のオペレーティングシステムを選択してください。

リモートInsightボード ドライバをインストール、更新または削除するには、以下の手順に従ってください。

1. Windows NTを起動してアドミニストレータ権限のあるアカウントにログオンします。
2. SmartStart and Support Software CDをCD-ROMドライブに挿入します。
3. [ファイル名を指定して実行...]を選択した後、次のコマンドを入力します。
[CDドライブ]: ¥CPQSUPSW¥NTSSDJ¥SETUP
4. [高速]オプションを選択します。
セットアップ プログラムで、次のようなインストール可能なドライバが表示されます。

CompaqリモートInsightボード ドライバ
Compaqシステム マネジメント ドライバ
CompaqリモートInsight WANドライバ
ATI RageIICビデオ コントローラ

5. [システム マネジメント ドライバ]を選択して、ドライバの組み込みまたは更新を実行します。必ず、両方のリモートInsightドライバも選択してください。
6. リモートInsightボードがシステムに組み込まれている場合、[OK]をクリックすると、両方のリモートInsightドライバ（リモートInsightボードおよびリモートInsight WAN）が組み込まれます。

注: WANドライバを組み込むと、必ず、リモートInsightボード ドライバが強制的に更新されます。古いバージョンのリモートInsightボード ドライバがすでに組み込まれている場合、最新バージョンに更新されます。

7. Windows NT SSDのSETUPプログラムを終了します。ただし、システムを再起動しないでください。
8. まだRASを組み込んでいない場合、ここで、RASの組み込みプログラムが自動的に起動されます。Microsoft Windows NTのCDをCD-ROMドライブに挿入するように要求されます。

重要: ダイアログ ボックス内のパスが、ご使用のCD-ROMドライブと¥I386ディレクトリを指定していることを確認してください。

9. RASの組み込みが完了したら、RASを設定する必要があります。RIBWAN デバイスを選択して[設定]ボタンを押します。ポートの使用を[ダイヤルアウトのみ]に変更して[OK]を押します。
10. デバイスRIBWANを選択して[ネットワーク]ボタンを押します。TCP/IPというラベルの付いたボックスをチェックし、他のすべてのボックスのチェックを解除した後、[OK]を押します。
11. [続行]ボタンを押してRASのセットアップを終了した後、[閉じる]を押して[ネットワーク]アプレットを閉じます。

12. 以上で、コンピュータを再起動できるようになりました。Service PackをWindows NTで実行し、手順8でRASをインストールした場合、Service Packを再度適用しなければなりません。[いいえ]を選択します。システムは再起動されず、Service Packが再度適用されます。それ以外の場合、[はい]を押してシステムを再起動します。

重要: 正常に動作するには、最新のRAS用 Service Packを組み込む必要があります。あらかじめService Packを適用した場合は、RASを組み込んだ後に再度適用する必要があります。

13. サービス パックを適用した後、組み込んだドライバをロードするには、システムを再起動する必要があります。

SCO UnixWare ドライバのサポート

SCO UnixWare 2およびUnixWare 7用のリモートInsightボード ドライバは、crld という名前です。これらのドライバは、SmartStart and Support Software CDに入っています。Diskette Builderユーティリティを使って、SCO UnixWare 2およびUnixWare 7用に必要なEFS (Extended Feature Supplement) ディスケットを作成してください。crldドライバをインストールするには、EFSのドキュメンテーション ディスケットに記載されている手順に従ってください。

注: リモートInsightボードでビデオを正常に動作させるためには、Rage IIcビデオ コントローラ ドライバもインストールする必要があります。このドライバはSmartStart and Support Software CDに収録されています。

リモート制御ソフトウェアのインストールと設定

Windows NTが動作するサーバで、リモートInsightボードを使用してグラフィカルなリモート制御セッションを確立する場合、pcANYWHERE 7.5以上をインストールして設定する必要があります。

管理用PCとサーバの間にルータがある複雑なネットワーク環境については、付録Cのネットワーク接続に関する補足情報を参照してください。

pcANYWHERE

ソフトウェアに付属のマニュアルの指示に従ってpcANYWHERE 7.5をインストールします。次に、以下の項で説明する手順に従って、ホストとゲストを設定します。

ホストでのpcANYWHEREの設定 (ダイヤルインの場合)

pcANYWHEREのホスト側で以下の手順を実行します。

1. [Be a Host PC]をクリックします。
2. [Add Be a Host PC]アイコンをダブルクリックして新しいホストのアイコンを作成します。
3. ホスト サーバの名前を入力した後、[Next]をクリックします。
4. [Connection Device]画面で[TCP/IP]を選択した後、[Next]をクリックします。
5. [Automatically Launch after Wizard]の選択を解除して[Finish]をクリックします。
6. [Connections]の[Context]メニューを開いて[Properties]を選択します。
7. [Settings]タブをクリックして、[Launch Host at Startup]がチェックされていることを確認した後、[OK]をクリックします。
8. 新しいホストPC項目をダブルクリックして起動します。

ホストでのpcANYWHEREの設定 (ネットワーク接続の場合)

pcANYWHEREを使用してリモートInsightボードのNICに接続する場合、ダイヤルインに必要な手順を実行するだけでなく、リモートInsightボードのWindows NTインタフェースを経由したネットワーク ルートを管理用PCに追加する必要があります。たとえば、管理用PCとサーバの間にルータがない場合、サーバで、[プログラム名を指定して実行...]を選択した後、次のコマンドを入力します。

```
route add -p 192.168.0.18 xxx.xxx.xxx.xxx
```

ここで、xxx.xxx.xxx.xxxは、管理用PCのNICのIPアドレスです。-pスイッチは、ルートを永続的なルートにします。すなわち、サーバを再起動した後、ルートを再度追加する必要はありません。

管理用PCとサーバの間にルータがある複雑なネットワーク環境については、付録Cのネットワーク接続に関する補足情報を参照してください。

ゲストでのpcANYWHEREの設定 (ダイヤルインの場合)

pcANYWHEREのゲスト側（リモート管理用PC）で以下の手順を実行します。

1. [Remote Control]をクリックします。
2. [Add Remote Control]アイコンをダブルクリックして新しいリモート制御のアイコンを作成します。
3. 新しいリモート制御接続の名前を入力した後、[Next]をクリックします。

4. [Connection Device]画面で[TCP/IP]を選択します。[Host PC name]フィールドに192.168.0.18と入力した後、[Next]をクリックします。
5. [Automatically begin Remote Control session upon Wizard Completion]の選択を解除して[Finish]をクリックします。
6. Compaq Insightマネージャまたはダイヤルアップ ネットワーク接続を使用してリモートInsightボードのモデムとのPPP接続を確立します。
7. pcANYWHEREのアイコンをダブルクリックしてサーバにダイヤルします。

ゲストでのpcANYWHEREの設定 (ネットワーク接続の場合)

pcANYWHEREを使用してリモートInsightボードのNICに接続する場合、ダイヤルインに必要な手順を実行するだけでなく、リモートInsightボードの内蔵NICを経由したリモートInsightボードのWindows NTインタフェースまでのネットワーク ルートを追加する必要があります。リモート管理用PCで、[プログラム名を指定して実行...]を選択した後、次のコマンドを入力します。

```
route add -p 192.168.0.18 xxx.xxx.xxx.xxx
```

ここで、xxx.xxx.xxx.xxxは、リモートInsightボードの内蔵NICのIPアドレスです。-pスイッチは、ルートを永続的なルートにします。すなわち、サーバを再起動した後、ルートを再度追加する必要はありません。

管理用PCがWindows 95を実行している場合、[スタート]、[プログラム名を指定して実行...]を選択した後、次のコマンドを入力します。

```
route add 192.168.0.18 xxx.xxx.xxx.xxx
```

ここで、xxx.xxx.xxx.xxxは、リモートInsightボードの内蔵NICのIPアドレスです。

情報の入手方法

リモート Insight ボードの操作およびトラブルシューティングについては、Compaq Management CD に収録されているリモート Insight ボードのオンラインヘルプを参照してください。このヘルプ ファイルはコンパクトの Web サイトからも入手できます。システム マネジメントのページ (<http://www.compaq.com/sysmanage/>) にアクセスして、左側のナビゲーション バーにあるリモート Insight ボード/PCI のセクションを参照してください。

付録A

規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice (米国)

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (i.e., personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows which class (A or B) the equipment falls into. Class B devices have an FCC Logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC Logo or FCC ID on the label. Once the class of the device is determined, refer to the following corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Compaq Computer Corporation may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Declaration of Conformity for Products Marked with FCC Logo, United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact:

Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000

Or call 1-800-652-6672 (1-800-OK COMPAQ) (For continuous quality improvement, calls may be recorded or monitored.)

For questions regarding this FCC declaration, contact:

Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000

Or call (281) 514-3333

To identify this product, refer to the Part, Series, or Model number found on the product.

Canadian Notice (Avis Canadien) **(カナダおよびカナダ、フランス語使用地域)**

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice

Products with the CE Marking comply with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in brackets are the equivalent international standards):

- EN55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN50082-1 (IEC801-2, IEC801-3, IEC801-4) - Electromagnetic Immunity
- EN60950 (IEC950) - Product Safety

モデムの認定番号

リモートInsightボードに組み込まれたモデムは、表A-1に示す国の電話網に接続することが認められています。ここに示されていない製品および国については、モデムに貼付されている認定マークを直接参照してください。マークを見るために装置を開ける手順については、第2章を参照してください。

一部の国では、製品が、以下に示されていない別の認定の対象となっている場合があります。これらの追加の認定については、製品に貼付されているマークを参照してください。表にない国の認定をコンパックのWebサイトで確認できる場合があります。これらの認定番号を確認するには、コンパックのWebサイト（<http://www.compaq.com/>）にアクセスし、サイトの検索機能を使って“telecom network approvals”を検索してください。検索結果がご使用の製品に適合する場合、認定マークまたは認定番号を表示し、印刷することができます。

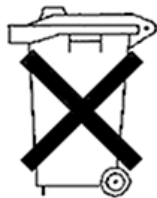
シリーズNC2002モデムについては、以下の表を参照してください。

表A-1
電気通信網の認定

国	認定番号
日本	S98-2391-0
アメリカ合衆国	CNTSNG-33039-M5-E
EUおよびEFTA 各国	CE 168 _X_
オーストラリア	A-tick N119
カナダ	780 9148 A
メキシコ	MDMCONC98-309

バッテリーの取り扱いについてのご注意

リモートInsightボードには、Nickel Metal Hydride NiMHバッテリーパックが装備されています。バッテリーの交換および取り扱いについては、コンパック正規保守代理店にお問い合わせください。



バッテリーを家庭用ゴミとして捨てることは禁じられています。公共の収集システムを利用するか、コンパック正規保守サービス会社またはコンパック製品販売店まで郵送してください。

モデムに関するご注意

認定機関の識別番号

承認識別のために、モデムには、コンパックのシリーズ番号が割り当てられます。この製品のコンパックのシリーズ番号は、シリーズEVB100です。このシリーズ番号をモデムの製品名や製品番号と混同しないでください。モデムのシリーズ番号は、モデムの使用を許可する認定マークおよび認定番号とともに製品に貼られたラベルに印刷されています。

U.S. Regulations Governing the Use of Modems

This equipment complies with Part 68 of the FCC rules. Located on the bottom of the Remote Insight Board/PCI is a label that contains, among other information, the FCC Registration Number and Ringer Equivalence Number (REN) for this equipment. Upon request, you must provide this information to your telephone company.

Ringer Equivalence Number

The REN is useful to determine the quantity of devices you may connect to your telephone line and still have all of those devices ring when your telephone number is called. In most areas (but not all), the sum of the RENs of all devices connected to one line should not exceed five (5.0). To be certain of the number of devices you may connect to your telephone line, as determined by the REN, you should contact your local telephone company to determine the maximum REN for your calling area.

The REN for this device is 0.4.

An FCC Compliant 6-position modular plug is provided with this equipment. This equipment is designed to be connected to the telephone network or premises wiring using a compatible 6-position modular jack which is FCC Part 68 Compliant.

If your telephone equipment causes harm to the telephone network, the telephone company may discontinue your service temporarily. If possible, they will notify you in advance. But, if advance notice is not practical, you will be notified as soon as possible. You will also be informed of your right to file a complaint with the FCC.

Your telephone company may make changes in its facilities, equipment, operations, or procedures that could affect the proper functioning of your equipment. If they do, you will be notified in advance to give you an opportunity to maintain uninterrupted telephone service.

If you experience trouble with this telephone equipment, contact your local telephone company for information on obtaining service or repairs. The telephone company may ask that you disconnect this equipment from the network until the problem has been corrected or until you are sure that the equipment is not malfunctioning.

This equipment may not be used on coin service provided by the telephone company. Connection to party lines is subject to state tariffs.

For the Compaq Customer Support Center and your nearest Compaq Authorized reseller in North America, call 1-800-345-1518 or write:

Compaq Customer Support Center
P.O. Box 692000
Houston, Texas 77269-2000

Telephone Consumer Protection Act of 1991

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone facsimile machine unless such message clearly contains, in a margin at the top or bottom of each transmitted page, or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, or entity, or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, or entity, or individual.

Canadian Regulations Governing the Use of Modems

NOTE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational, and safety requirements. The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing the equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection. In some cases, the company's inside wiring associated with a single line individual service may be extended by means of a certified connector assembly (telephone extension cord). The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be made by an authorized Canadian maintenance facility designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines, and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.



CAUTION: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority or an electrician.

NOTE: The Ringer Equivalence Number (**REN**) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices, subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

The **Ringer Equivalence Number (REN)** for this device is 0.4.

For the location of the authorized Canadian maintenance facility nearest you, call 1-800-263-5868 or contact:

Compaq Canada, Inc.
45 Vogell Road
Richmond Hill, Ontario LA5B 3P6

European Union Notice

Products with the CE marking comply with Telecommunication Terminal Equipment and Satellite Earth Station Equipment (TTE & SES) Directive (98/13/EC), the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms or Regulations (in brackets are the equivalent international standards and regulations):

- EN55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN50082-1 (IEC801-2, IEC801-3, IEC801-4) - Electromagnetic Immunity
- EN60950 (IEC950) - Product Safety
- CTR21 (ETSI TBR21) - Attachment requirements for connection to the analogue PSTNs of terminal equipment

The equipment has been approved in accordance with Council Decision 98/482/EC for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN). However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries, the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point. In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

The equipment is designed to work with all EU telephone networks. However, the equipment may have interworking difficulties for some connections on the EU public networks. Dialling by loop disconnect pulses is not intended to be used on the PSTN. This feature is only supported in consideration of PBX or other equipment which requires pulse dialling. Network compatibility is dependent on software switch settings which are set automatically by the country selection. The user should contact the equipment supplier in case of difficulty in network settings.

New Zealand Modem Statements

The grant of a Telepermit for any item of terminal equipment indicates only that Telecom has accepted that the item complies with minimum conditions for connection to its network. It indicates no endorsement of the product by Telecom, nor does it provide any sort of warranty. Above all, it provides no assurance that any item will work correctly in all respects with another item of Telepermitted equipment of a different make or model, nor does it imply that any product is compatible with all of Telecom's network services.

This equipment is not capable, under all operating conditions, of correct operation at the higher speeds for which it is designed. Telecom will accept no responsibility should difficulties arise in such circumstances.

This device is equipped with pulse dialling while the Telecom standard is DTMF tone dialling. There is no guarantee that Telecom lines will always continue to support pulse dialling.

Use of pulse dialling, when this equipment is connected to the same line as other equipment, may give rise to bell tinkle or noise and may also cause a false answer condition. Should such problems occur, the user should not contact the Telecom Faults Service.

Some parameters required for compliance with Telecom's Telepermit requirements are dependent on the equipment (PC) associated with this device. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom's Specifications:

1. There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation.

And

2. The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next attempt.

Where automatic calls are made to different numbers, the equipment shall go on-hook for a period of not less than 5 seconds between the end of one attempt and the beginning of the attempt.

The equipment shall be set to ensure that calls are answered between 3 and 30 seconds of receipt of ringing (S0 set between 2 and 10). This ensures:

1. A person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
2. Caller identification (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

This equipment does not fully meet Telecom's impedance requirements. Performance limitations may occur when used in conjunction with some parts of the network. Telecom will accept no responsibility should difficulties arise in such circumstances.

This equipment should not be used under any circumstances which may constitute a nuisance to other Telecom customers.

This equipment shall not be set to make automatic calls to the Telecom '111' Emergency Service.

付録B

静電気対策

システムをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごと、アースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1M \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気拡散性の床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、コンパック製品販売店またはコンパック正規保守サービス会社にお問い合わせください。

注: 静電気について詳しくは、コンパック製品販売店またはコンパック正規保守サービス会社にお問い合わせください。

複雑なネットワーク環境の設定

リモートInsightボードの接続について

リモートInsightボードを使用すると、さまざまな方法で自由にサーバに接続できます。たとえば、Compaq Insightマネージャを実行するリモート管理用PCは、そのモデムを使用してリモートInsightボードのモデムに接続できます。また、NICを使えば、リモートInsightボードのNICやサーバのNICにも接続できます。

以下に説明するネットワークの接続4つの例で、リモート管理用PCとリモートInsightボードの間にルータがある場合の、リモート管理用PCからリモートInsightボードに接続するためのさまざまな方法の一例を示します。さらに、これらの例では、IPアドレスの割り当て方や接続を開くためにIPアドレスを設定する必要がある場合についても説明しています。ここで取り上げる接続例は、次のとおりです。

- モデムを使用したWAN接続
- LAN接続
- 複数のLAN接続
- ルータを使用した複数のLAN接続

選択できるさまざまな接続方法をより詳しく理解し、設定しなければならないIPアドレスを知るには、接続方法に応じてその例の図を参照してください。ここで取り上げる接続例は、複雑なネットワーク環境を示しています。

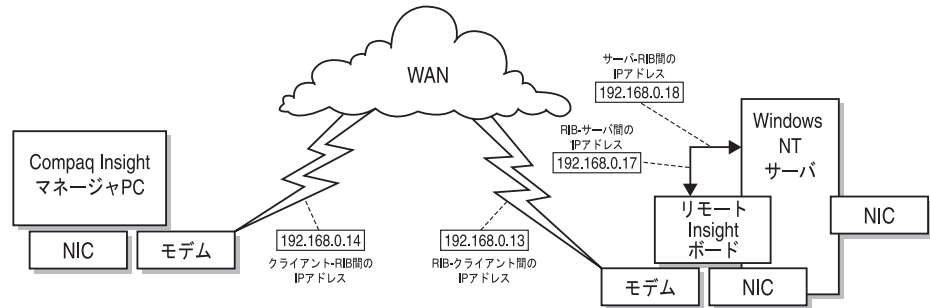
ルートの追加と削除

リモートInsightボードのユーザが（テキストベースのユーザ インタフェースではなく）グラフィカル ユーザ インタフェースを使用してWindows NTサーバをリモートで制御するためにpcANYWHEREとリモートInsightボードを組み合わせる場合、TCP/IPパケットのルーティングが重要です。さらに、これは、Compaq InsightマネージャのユーザがリモートInsightボードを経由してサーバ上のWebベースのサーバ管理エージェントにアクセスする場合にも重要です。

Windows NTユーザは、ネットワーク接続の管理にTCP/IP診断ユーティリティ（ping、route、netstat、tracert）を使用します。これらのユーティリティの詳細については、Windows NTのマニュアルを参照してください。簡単に説明すると、Compaq InsightマネージャをインストールしたPCとサーバ間のルートの追加には**route add**を使用し、ルートの削除には**route delete**を使用します。ルートを追加する場合、永久スイッチ(-p)を指定しない限り、追加するルートは永続的なルートになりません。永続的ではないルートは、コンピュータを再起動するまで有効です。

TCP/IP接続が2つのステーション間で正常に動作していることを確認するには、**ping**を使用します。ネットワークを経由したあるホストから別のホストまでのルートを確認するには、**tracert**を使用します。ホストのIPで現在認識されているルートのリストを表示するには、**route print**または**netstat**を使用します。

モデムを使用したWAN接続



図C-1. モデムを使用したWAN接続

図C-1は、管理用PCをリモートInsightボードのモデムに接続する場合を示しています。Compaq InsightマネージャがリモートInsightボードのモデムにダイヤルアウトしてPPP接続すると、リモートInsightボードによって自動的に次の割り当てが行われます。

- 管理用PCのモデムには、IPアドレス192.168.0.14が割り当てられます。
- リモートInsightボードのモデムには、IPアドレス192.168.0.13が割り当てられます。

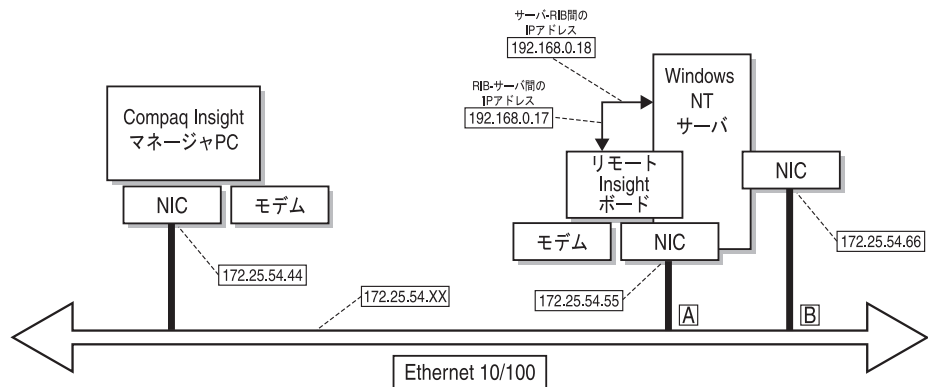
接続が確立されると、SNMPデータは自動的にサーバとCompaq Insightマネージャ間で送受信されます。このとき、管理用PC上のブラウザでURL 192.168.0.13を指定してリモートInsightボードの機能を制御できます。

Windows NTサーバとリモートInsightボード間では、RIBWAN接続が自動的に開かれ、リモートInsightボードによって次の割り当てが行われます。

- Windows NTサーバには、IPアドレス192.168.0.18が割り当てられます。
- リモートInsightボードのWAN接続には、IPアドレス192.168.0.17が割り当てられます。

pcANYWHEREを使用して192.168.0.18に接続すると、リモートInsightボードのモデムを経由してWindows NTサーバのグラフィカル リモート コンソールを表示できます。

LAN接続



図C-2. LAN接続

図C-2は、管理用PCのNICからリモートInsightボードのNICまでの接続を示しています。NICを使用する場合、リモートInsightボードをサーバにインストールするときに、リモートInsightボードのNICのIPアドレスを設定する必要があります。この例では、NICには、ユーザによってIPアドレス172.25.54.55が割り当てられています。

Compaq InsightマネージャがWindows NTサーバ上のサーバ管理エージェントを認識するには、リモートInsightボードのNICに隠されているRIBWAN接続を見つけるためのネットワーク ルートを追加する必要があります。Windows NT 4.0を実行するCompaq InsightマネージャPCからこのルートを追加するには、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 172.25.54.55 -p
```

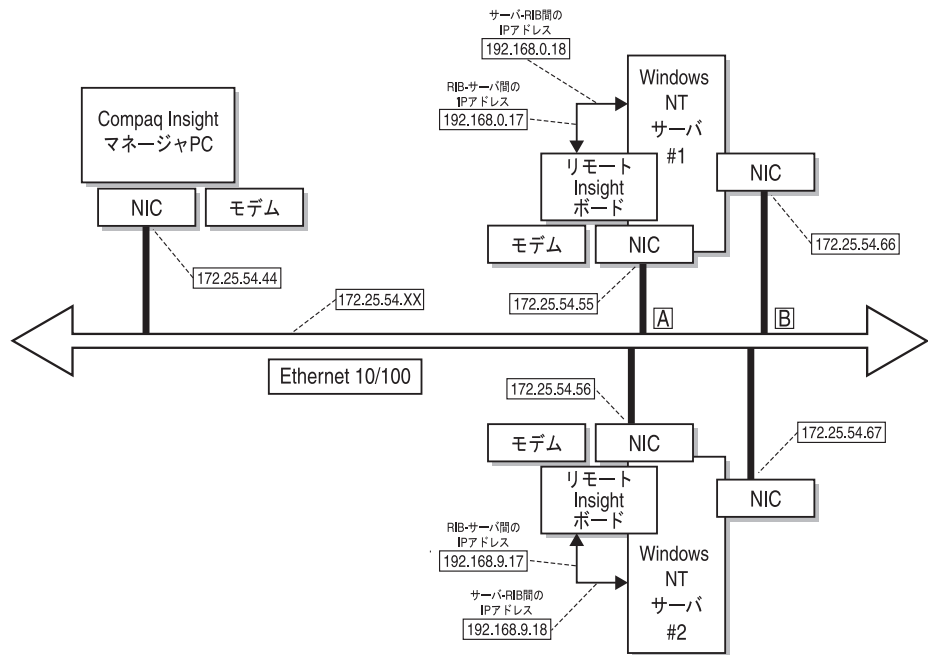
さらに、SNMPデータをサーバからリモートInsightボードを経由してCompaq Insightマネージャに自動的に送るためのネットワーク ルートも追加する必要があります。サーバから、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 172.25.54.44 192.168.0.0 -p
```

このとき、管理用PC上のブラウザでURL 172.25.54.55を指定してリモートInsightボードの機能を制御できます。また、pcANYWHEREを使用して192.168.0.18に接続すると、リモートInsightボードのNICを経由してWindows NTサーバのグラフィカル リモート コンソールを表示できます。

注: Compaq Insightマネージャは、Windows NTサーバの管理にリモートInsightボードのNICまたはサーバのNIC (図C-2では、それぞれAおよびBとして示しています) のどちらでも使用できます。前に説明したとおり、サーバ上のルートを追加すると、B上でサーバに送信されるCompaq Insightマネージャの問い合わせはすべて、Aを経由してCompaq Insightマネージャに戻されます。

複数のLAN接続



図C-3. 複数のLAN接続

図C-3は、管理用PCのNICから2つの異なるサーバ上のリモートInsightボードのNICまでの接続を示しています。NICを使用する場合、リモートInsightボードをサーバにインストールするときに、リモートInsightボードのNICのIPアドレスを設定する必要があります。この例では、ユーザが次のIPアドレスを割り当てています。

- Windows NTサーバ#1に172.25.54.55
- Windows NTサーバ#2に172.25.54.56

Windows NTサーバ#1のリモートInsightボードは、着信モデム/PPP接続にデフォルトのIPアドレス（192.168.0.xx）を使用します。Windows NTサーバ#2のリモートInsightボードは、別のサブネットを使用しなければならないため、ユーザは、これを192.168.9.xxとして設定しています。

Compaq Insightマネージャが両方のサーバ上のサーバ管理エージェントを認識するには、各リモートInsightボードのNICに隠されているRIBWAN接続を見つけるためのネットワーク ルートを2つ追加する必要があります。Windows NT 4.0を実行するCompaq InsightマネージャPCからこのルートを追加するには、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 172.25.54.55 -p
```

```
route add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 172.25.54.56 -p
```

さらに、SNMPデータをサーバからリモートInsightボードを経由してCompaq Insightマネージャに自動的に送るためのネットワーク ルートも追加する必要があります。Windows NTサーバ#1から、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 172.25.54.44 192.168.0.18 -p
```

Windows NTサーバ#2から、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

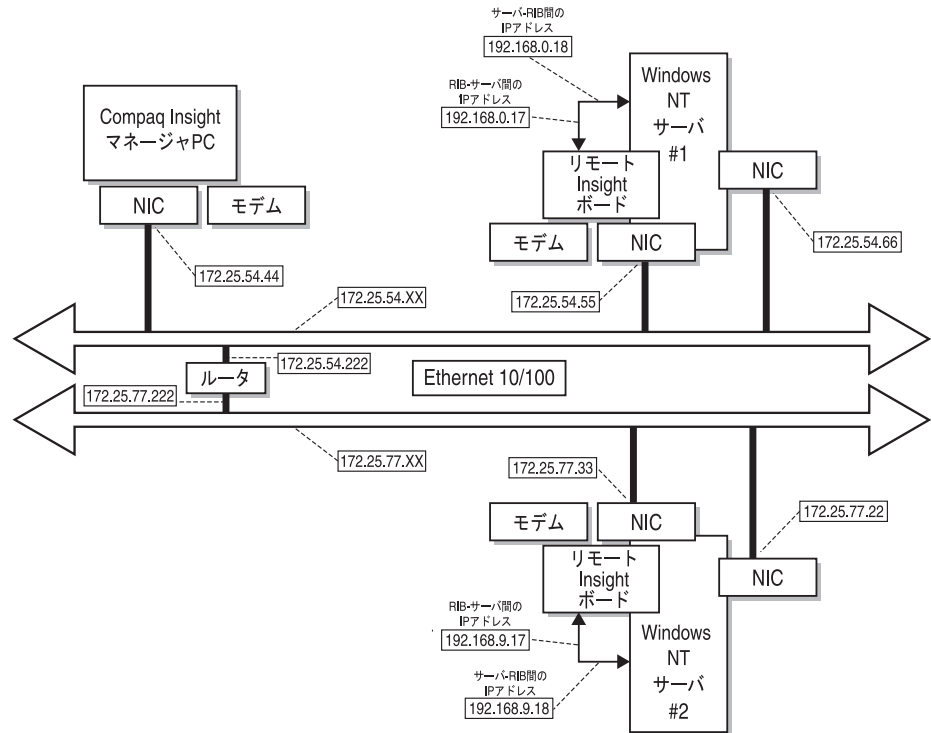
```
route add 172.25.54.44 192.168.9.18 -p
```

このとき、管理用PC上のブラウザでURL 172.25.54.55を指定してWindows NTサーバ#1上のリモートInsightボードの機能を制御するか、またはURL 172.25.54.56を指定してWindows NTサーバ#2上のリモートInsightボードの機能を制御できます。

また、pcANYWHEREを使用して192.168.0.18（Windows NTサーバ#1の場合）または192.168.9.18（Windows NTサーバ#2の場合）に接続すると、リモートInsightボードのNICを経由してグラフィカル リモート コンソールを表示できます。

注: Compaq Insightマネージャは、Windows NTサーバの管理にリモートInsightボードのNICまたはサーバのNIC（図C-2では、それぞれAおよびBとして示しています）のどちらでも使用できます。前に説明したとおり、サーバ上のルートを追加すると、B上でサーバに送信されるCompaq Insightマネージャの問い合わせはすべて、Aを経由してCompaq Insightマネージャに戻されます。

ルータを使用した複数のLAN接続



図C-4. ルータを使用した複数のLAN接続

図C-4は、サーバをルータで分離した場合の2つの異なるサーバ上のリモート InsightボードのNICまでの接続を示しています。NICを使用する場合、リモート Insightボードをサーバにインストールするときに、リモート InsightボードのNICのIPアドレスを設定する必要があります。この例では、ユーザが次のIPアドレスを割り当てています。

- Windows NTサーバ#1に172.25.54.55
- Windows NTサーバ#2に172.25.77.33

Windows NTサーバ#2については、Compaq Insight マネージャPCを見つけるためのデフォルトのゲートウェイ（別のサブネット上にあります）を使用してリモート Insightボードを設定する必要があります。Windows NTサーバ#2のリモート Insightボードのデフォルトのゲートウェイは、ルータのIPアドレス（172.25.77.222）です。

Windows NTサーバ#1のリモートInsightボードは、着信モデム/PPP接続にデフォルトのIPアドレス（192.168.0.xx）を使用します。Windows NTサーバ#2のリモートInsightボードは、別のサブネットを使用しなければならないため、ユーザは、これを192.168.9.xxとして設定しています。

Compaq Insightマネージャが両方のサーバ上のサーバ管理エージェントを認識するには、各リモートInsightボードのNICに隠されているRIBWAN接続を見つけるためのネットワーク ルートを2つ追加する必要があります。Windows NT 4.0を実行するCompaq InsightマネージャPCからこのルートを追加するには、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 172.25.54.55 -p
```

```
route add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 172.25.54.222 -p
```

さらに、次のコマンドを入力してルータにルートを追加する必要があります。

```
route add 192.168.9.0 mask 255.255.255.0 172.25.77.33
```

また、SNMPデータを各サーバからリモートInsightボードを経由してCompaq Insightマネージャに自動的に送るためのネットワーク ルートも追加する必要があります。Windows NTサーバ#1から、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 172.25.54.54 192.168.0.18 -p
```

Windows NTサーバ#2から、MS-DOSボックスを使用して次のコマンドを入力します。

```
route add 172.25.54.44 192.168.9.18 -p
```

このとき、管理用PC上のブラウザでURL 172.25.54.55を指定してWindows NTサーバ#1上のリモートInsightボードの機能を制御するか、またはURL 172.25.77.33を指定してWindows NTサーバ#2上のリモートInsightボードの機能を制御できます。

また、pcANYWHEREを使用して192.168.0.18（Windows NTサーバ#1の場合）または192.168.9.18（Windows NTサーバ#2の場合）に接続すると、リモートInsightボードのNICを経由してグラフィカル リモート コンソールを表示できます。

付録D

リモートInsightボードの 設定パラメータ

この付録について

ここでは、リモートInsightボードの設定パラメータについて説明します。次の各パラメータを表D-1のワークシートに示します。

表D-1
リモートInsightボードの設定ワークシート

パラメータ	デフォルト値	使用する値
サーバの識別		
PCIリソース	IRQ5	
サーバ名		
サーバID		
リモートInsightボードのシリアル番号	xxxxxx-xxx	NA
ファームウェアのバージョン	xx.xx	NA
ファームウェアの日付	mm/dd/yy	NA
ネットワーク インタフェース		
ステータス	無効	
トランシーバ速度	自動感知	
IPアドレス	0.0.0.0	

続く

表D-1
リモートInsightボードの設定ワークシート 続き

パラメータ	デフォルト値	使用する値
デフォルトのゲートウェイ	0.0.0.0	
サブネットマスク	255.255.255.0	
MACアドレス		NA
モデム設定 (モデム モデルのみ)		
モデム ステータス	存在	NA
ポート速度	57600	
データ ビット	8	
パリティ	なし	
ストップビット	1	
リセット コマンド	AT&F	
初期化コマンド	AT&C1&D2	
ダイヤル プレフィックス コマンド	ATDT	
国別コード	US	
RIBからクライアントへのIPアドレス	192.168.0.13	
クライアントからRIBへのIPアドレス	192.168.0.14	
IPサブネット マスク	255.255.255.0	
シリアルポート設定 (シリアル モデルのみ)		
シリアルポートの状態	無効	
ポート速度	57600	
データ ビット	8	
パリティ	なし	
ストップビット	1	
外付モデム リセットコマンド	ATZ	
外付モデム初期化コマンド	AT&C1&D2	
外付モデム ダイヤル プレフィックス	ATDT	
シリアルポート初期化	なし	
NTグラフィカルリモート コンソール		
NTグラフィカルリモート コンソール	無効	
RIBからサーバへのIPアドレス	192.168.0.17	
サーバからRIBへのIPアドレス	192.168.0.18	
IPサブネット マスク	255.255.255.0	
ポケットベル設定-最大TAP設定		
ボーレート	300	

表D-1
リモートInsightボードの設定ワークシート 続き

パラメータ	デフォルト値	使用する値
データビット	7	
パリティ	偶数	
ストップビット	2	
遅延時間	8秒	
プレフィックス コマンド	なし	
サフィックス コマンド	#	
ポケットベルパスワード	なし	
ダイヤルイン セキュリティ		
ログイン回数のスレッシュホールド	3	
ダイヤルバック	要求なし	
ユーザの設定		
ユーザ1		
ユーザ名		
ログイン名		
パスワード		
ダイヤルバック番号		
ポケットベルのタイプ	標準DTMF数値	
ポケットベル番号		
ポケットベルID/PIN		
PPP/SNMP電話番号		
SNMPトラップIPアドレス		
セキュリティ アクセス		
受信アラート数		
キーボード	日本語	
アラート	有効	
アラートのベンディング		
アラートのベンディング キャンセル		
イベント ログの消去		
バッテリー		
バッテリーの状態		
リモートInsightボードのリセット コマンド		
通信設定		

サーバの識別

PCIリソース

このフィールドには、PCIリソース用に予約された割り込みが表示されます。デフォルト値は、IRQ 5です。この値は変更できません。

サーバ名

ホスト サーバの名前を入力します。この名前は、サーバを識別できるものであればどんな名前でもかまいません。サーバ名は最大48桁の数字または文字で構成できます。

この名前は、アラートとともに英数字ポケットベルに送信されます。

ホスト サーバのオペレーティング システムでInsightマネジメント エージェントを使用している場合、エージェントは、ここに指定する情報の代わりにサーバ名をリモートInsightボードに提供します。

サーバID

ホスト サーバのID番号を入力します。この番号は、サーバを識別できるものであればどんな名前でもかまいません。空白のスペースがない限り、番号は最大8桁まで入力できます。

この名前は、アラートとともに数値および英数字ポケットベルに送信されます。

シリアル番号

この番号は、CompaqリモートInsightボードのシリアル番号です。これは、情報として表示されるだけです。この番号を変更することはできません。

ファームウェアのバージョン

この番号は、リモートInsightボードのリモートInsightソフトウェアのバージョン番号です。これは情報として表示されるだけで、変更することはできません。

フリーウェアの日付

リモートInsightボードのファームウェアのバージョンの日付です。これは情報として表示されるだけで、変更することはできません。ファームウェアの日付のフォーマットは次のとおりです。

mm/dd/yyyy

ここで、

mm -月

dd -日

yyyy -年

ネットワーク インタフェース

ステータス

リモートInsightボードのNICを使用する場合、ステータスを有効に変更し、リモートInsightボードのNICにネットワーク上で固有のIPアドレスを割り当てる必要があります。このセクションのIPアドレス パラメータを使用してIPアドレスを割り当てます。デフォルト値は、無効です。

トランシーバの速度

自動選択は、インタフェースを検出して10Mbまたは100Mbで動作するように設定します。必要に応じて、10Mbまたは100Mbだけで接続されるようにこのパラメータを設定できます。デフォルト値は、自動選択です。

IPアドレス

リモートInsightボードのNICを使用する場合、このパラメータを使用して、リモートInsightボードのNICにネットワーク上で固有のIPアドレスを割り当てます。デフォルト値は、0.0.0.0です。

デフォルト ゲートウェイ

リモートInsightボードのNICを使用する場合、このパラメータを使用して、リモートInsightのサブネットを管理用PCがある別のサブネットに接続するネットワーク ルータのIPアドレスを割り当てます。デフォルト値は、0.0.0.0です。

サブネット マスク

リモートInsightボードのNICを使用する場合、このパラメータを使用して、デフォルトのゲートウェイのサブネット マスクを割り当てます。デフォルト値は、255.255.255.0です。

MACアドレス

工場出荷時に割り当てられたメディア アクセス制御 (MAC) アドレスです。これは、リモートInsightボードのEthernet NICに割り当てられるハードウェアアドレスです。この値は変更できません。

モデムの設定

これらのパラメータは、モデムが内蔵されている場合にそのモデムに関係があります。通常、デフォルト値を使用してください。内蔵モデムがない場合、[モデム設定]のパラメータは表示されません。

モデム ステータス

このパラメータは、ステータス インジケータです。これは変更できません。ステータス[有]は、リモートInsightボードにモデムが装備され、使用可能であることを示します。

ポート速度

このパラメータは、リモートInsightボードの内蔵モデムが使用する最大速度を選択します。デフォルトは57600です。入力可能な値は、300、1200、2400、4800、9600、14400、19200、28800、33600、38400および57600です。

データ ビット

デフォルト値は8です。これは、Compaq Insightマネージャと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、8、7、6です。

パリティ

デフォルト値は[なし]です。これは、Compaq Insightマネージャ ソフトウェアと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、[なし]、[奇数]、[偶数]です。

ストップ ビット

デフォルト値は1です。これは、Compaq Insightマネージャ ソフトウェアと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、1、2です。

リセット コマンド

リモートInsightボードの内蔵モデムをリセットするために使用されるATコマンドです。デフォルト値は"AT&F"です。通常の動作環境では、この値を変更する必要はありません。

初期化コマンド

リモートInsightボードの内蔵モデムを初期化するために使用されるATコマンドです。デフォルト値は"AT&C1&D2"です。通常の動作環境では、この値を変更する必要はありません。

ダイヤル プレフィックス コマンド

リモートInsightボードの内蔵モデムから送信コールをダイヤルするために使用されるATコマンドです。デフォルト値は"ATDT"です。通常の動作環境では、この値を変更する必要はありません。

国別コード

このフィールドには、リモートInsightボードのモデムでサポートされる国のリストが表示されます。このリストでは、SmartStartまたはシステム コンフィギュレーション ユーティリティで選択した国が太字で表示されます。デフォルト値は、USです。

RIB-クライアントIPアドレス

リモートInsightボードのモデム接続に割り当てられます。アドレス割り当てが競合しない限り、これを変更しないでください。デフォルト値は、192.168.0.13です。

クライアント-RIB IPアドレス

リモートInsightボードのモデムにダイヤルインした接続に割り当てられます。アドレス割り当てが競合しない限り、これを変更しないでください。デフォルト値は、192.168.0.14です。

IPサブネット マスク

リモートInsightボードのモデム接続に割り当てられます。アドレス割り当てが競合しない限り、これを変更しないでください。デフォルト値は、255.255.255.0です。

シリアル ポート設定

これらの設定項目は、リモートInsightボードのシリアル ポートに接続した場合に外付モデムまたはヌル モデム アダプタ ケーブルに関係があります。

シリアル ポートの状態

この設定項目を使用して、リモートInsightボードのシリアル ポートで使用される接続の種類を指定します。また、シリアル端末を使用して直接アクセスする場合、ヌル モデム ケーブルを使用できます。

- **外付モデム:** 外付モデムをシリアル ポートに接続する場合、この設定値を選択します。
- **Null モデム:** 標準のヌル モデム アダプタ ケーブルをシリアル ポートに接続する場合、この設定値を選択します。

図D-1は、標準ヌル モデム ケーブルのケーブル構成図を示しています。

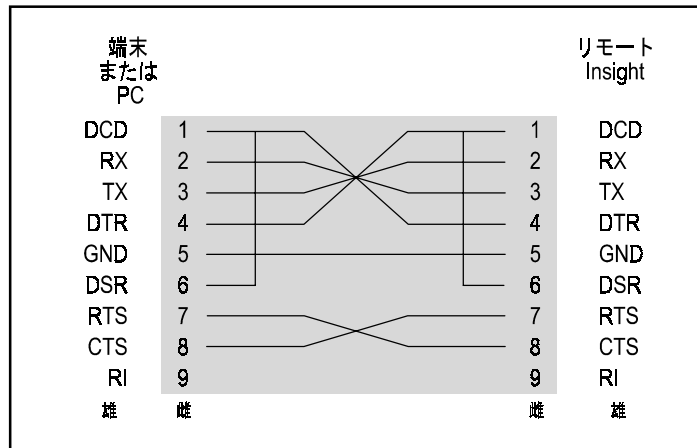


図1-1. 標準ヌル モデム ケーブルの接続

ポート速度

このパラメータで、リモートInsightボードのシリアル ポート デバイスが使用する最大速度を選択します。デフォルトは57600です。

外付モデムを使用する場合、モデム メーカーのマニュアルを参照して、サポートされる最大ビット レートを入力してください。

ヌル モデム ケーブルを使用する場合、信頼性のある動作を行う速度のうち最高の速度を選択してください。これは、使用するケーブルの長さと品質によって異なる場合があります。

入力可能な値は300、1200、2400、9600、14400、19200、28800、33600および57600です。

データ ビット

デフォルト値は8です。これは、Compaq Insightマネージャと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、8、7、6です。

パリティ

デフォルト値は[なし]です。これは、Compaq Insightマネージャと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、[なし]、[奇数]、[偶数]です。

ストップビット

デフォルト値は1です。これは、Compaq Insight マネージャと通信するために使用される値です。他の通信ソフトウェアを使用しない限り、このパラメータを変更する必要はありません。入力可能な値は、1、2です。

外付モデム リセット コマンド

リモート Insightのシリアル ポートに接続されている外付モデムをリセットするために使用されるATコマンドです。モデム メーカーのマニュアルを参照して、モデムをリセットするために必要なATコマンドを入力してください。デフォルト値は"ATZ"です。

ヌル モデム ケーブルを使用する場合、このコマンドは必要ありません。

外付モデム初期化コマンド

リモートInsightボードのシリアル ポートに接続されている外付モデムを初期化するために使用されるATコマンドです。モデム メーカーのマニュアルを参照して、モデムをリセットするために必要なATコマンドを入力してください。デフォルト値は"AT&C1&D2"です。

ヌル モデム ケーブルを使用する場合、このコマンドは必要ありません。

外付モデム ダイアル プレフィックス

リモートInsightボードのシリアル ポートに接続されている外付モデムから送信コールをダイヤルするために使用されるATコマンドです。デフォルト値は"ATDT"です。

ヌル モデム ケーブルを使用する場合、このコマンドは必要ありません。

シリアルポートの初期化

この初期化コマンドは、端末サーバおよびその他の直接接続またはモデム共用デバイスで接続を確立するために通信ポートを初期化する必要がある場合に指定します。この初期化コマンドは、リセットおよび初期化ATコマンドの前にシリアルポートに送信されます。デフォルトは[なし]です。

NTのグラフィカル リモート制御

これらの設定を使用すると、Windows NTサーバのリモート制御アクセスを有効または無効にできます。このアクセスを有効にすると、これらのパラメータを使用してリモート制御で使用されるIPアドレスを設定できます。

NTのグラフィカル リモート制御

この設定は、Windows NTサーバでリモート制御セッションを確立できるかを指定します。デフォルトは無効です。この機能を有効にすると、Windows NTサーバにWAN接続（ISDNモデムなど）を追加したことと同じになります。認可されていないアクセスを防ぐために、必ず、ユーザの認証も有効にしてください。

RIB-サーバ間のIPアドレス

デフォルトのアドレスは、192.168.0.17です。アドレス割り当てが競合しない限り、これを変更しないでください。

サーバ-RIB間のIPアドレス

デフォルトのアドレスは、192.168.0.18です。NTのグラフィカル リモート制御が有効のとき、リモートInsightボードがサーバのリモート制御で使用できるように、このアドレスが自動的に割り当てられます。アドレス割り当てが競合しない限り、これを変更しないでください。このアドレスを変更する場合は、必ず、リモートInsightのアドレスがすべて同一のサブネット内にあるようにしてください。

IPサブネット マスク

このパラメータは、RIB-サーバ間のIPアドレスとサーバ-RIB間のIPアドレスのサブネットマスクを割り当てます。デフォルト値は、255.255.255.0です。

ポケットベルの設定

これらの設定値は、リモートInsightボードの内蔵モデムまたは外付モデムを使用してポケットベル通知サービスに接続するために使用されます。問題が発生した場合、ポケットベルのサービス会社に正しい値をお問い合わせください。

リモートInsightボードは、標準のダイヤル トーン (DTMF) 数値ポケットベルまたはTelocator Alphanumeric Paging (TAP) プロトコルをサポートするポケットベル サービスを使用することができます。英数字のポケットベル アラートを受信するためには、TAPプロトコルをサポートするポケットベルを使用しなければなりません。

重要: 日本語で使用する場合のページングアラートの使用上の制限について
Compaq リモートInsightボードでは、ページャ (ポケットベル) へDTMF数値またはTAP (Telocator Alphanumeric Protocol) 英数字仕様のアラートを送信することができますが、これらの実際の使用には、ご利用のページング サービス (加入しているポケットベル サービス) 会社がこれらの方式をサポートしている必要があります。また、DTMF数値でのご使用の際にもご利用になるサービス会社との接続性について確認が必要です。

ポート速度

TAPプロトコルは、ボーレートを300に指定しますが、ご利用のポケットベルのサービス プロバイダによっては別のボーレートを使用する場合があります。デフォルト値は300です。

データ ビット

デフォルト値は"7"です。この値は、TAPプロトコルで指定されます。

パリティ

デフォルト値は[偶数]です。この値は、TAPプロトコルで指定されます。

ストップ ビット

デフォルト値は"2"です。この値は、TAPプロトコルで指定されます。

遅延時間

このパラメータを使用して、リモートInsightボードのモデムがポケットベル番号にダイヤルしてからメッセージを送信するまでの遅延を指定します。この遅延は、ポケットベル サービスが応答してポケットベル メッセージの受信準備完了を示す信号を送ることができる十分な長さでなければなりません。デフォルト値は2秒です。

プレフィックス コマンド

このパラメータを使用して、特定のポケットベル サービスのポケットベル メッセージの前に挿入しなければならない1文字以上の文字を指定します。たとえば、一部の国では、ポケットベル メッセージの前に"*"を挿入しなければなりません。デフォルト値は[なし]です。

サフィックス コマンド

このパラメータを使用して、特定のポケットベル サービスのポケットベル メッセージに追加しなければならない1文字以上の文字を指定します。通常、これはメッセージの終端を示すために追加されます。たとえば、米国では通常この文字は"#"/>サフィックス コマンド

ポケットベル パスワード

TAPプロトコルをサポートする一部のポケットベル サービスでは、ポケットベル アカウントにパスワードを割り当てることができます。このようなパスワードがある場合、このパラメータを使用してリモートInsightのポケットベル アラートのパスワードを指定します。デフォルト値は[なし]です。

ダイヤルイン セキュリティ

これらのパラメータを使用することによって、認可されていないユーザがリモートInsightボードにダイヤルインするのを防止できます。

ログイン回数のスレッシュホールド

1回の電話接続で、ログイン手続きが終了し、イベントをイベント ログに記録してセキュリティ アラートを送信するまでに許可したいログインの最大試行回数を入力します。このセキュリティ アラートは、ポケットベル アラートまたはSNMPアラートを受信するようにユーザが正しく設定されている場合のみ、(12名の受信可能なユーザのうち)最初に設定されたユーザだけに送信されます。デフォルト値は「3」です

ダイヤルバック

このパラメータを使用して、リモートInsightボードのすべてのユーザにダイヤルバック セキュリティが必要かどうかを一括して指定します。この値を[要求する]に設定すると、作成するすべてのユーザ ログインにダイヤルバック番号が必要です。各ユーザがダイヤルインして有効なログイン名とパスワードを入力すると、リモートInsightボードは自動的にユーザをログアウトしてそのユーザの番号にダイヤルバックします。

この値を[要求しない]に設定すると、ユーザの設定でダイヤルバック番号を入力することによって、ダイヤルバック セキュリティをユーザ単位で使用できます。ダイヤルバック番号が指定されている場合、リモートInsightボードは、このグローバル セキュリティ パラメータの状態に関係なく、必ず、ダイヤルバック セキュリティを適用します。

デフォルト値は、[要求しない]です。

ユーザの設定

このセクションを使用すると、ユーザがリモートInsightボードにアクセスできるように設定できます。最大12名のユーザを指定できます。このフィールドで **Enter** キーを押すと、ユーザ設定を追加、削除または変更できます。リモートInsightにアクセスするには、このセクションで1つ以上のユーザを設定する必要があります。

ユーザ名

ユーザリストやイベント ログに表示されるユーザの実際の名前です。これは、ログインに使用される名前ではありません。ユーザ名の最大長は48文字です。

ログイン名

リモートInsightボードにログインする際に使用しなければならない名前で、大文字と小文字が区別されます。

パスワード

リモートInsightボードにログインする際に使用しなければならないパスワードで、大文字と小文字が区別されます。これは、4文字以上、48文字以下の長さでなければなりません。パスワードの確認のため、2回入力する必要があります。

ダイヤルバック番号

ユーザ用にダイヤルバック セキュリティを使用したい場合、ユーザのダイヤルバック番号を入力します。全体でダイヤルバック セキュリティ機能が有効な場合、この番号が必要です。ユーザがログインすると、システムはユーザをログアウトして、この番号でダイヤルバックします。

電話番号を入力する場合、数字0、1、2、3、4、5、6、7、8、9と)、(、スペースおよびハイフンだけを使用してください。その他の文字はすべて無視されます。次に有効な入力例を示します。

- (713) 123- 4567
- (011612) 21323124
- 1265312653612536
- (73847) - 38 - 834378

ポケットベルの種類

ユーザのポケットベルの種類を選択します。入力する種類は、ポケットベル通知サービスによって異なります。選択可能な項目は次のとおりです。

- スタンダードDTMF - 電話機のキーパッドを使用してメッセージを入力できる標準の数値ポケットベル
- TAP英数字 - TAPプロトコルを使用する英数字ポケットベル
- TAP数字 - TAPプロトコルを使用する数値ポケットベル

ポケットベルの番号

このユーザのポケットベル アラートを有効にするには、ユーザのポケットベルの番号を入力します。

ポケットベルID/PIN

一部のポケットベル サービスは、中央アクセス番号のあとに特定のユーザのIDを使用します。ご使用のポケットベル サービスでユーザのポケットベルID番号を必要とする場合、その番号を入力します。

PPP/SNMP電話番号

リモートInsightボードからSNMPトラップ アラートを受信するリモート管理用PCの電話番号を入力します。このフィールドを空白のままにすると、ユーザはSNMPトラップ アラートを受信しません。ユーザの電話番号を設定すると、リモートInsightボードは、必ず、NICではなくモデムを経由して、そのユーザにSNMPトラップアラートを送信します。

SNMP IPアドレス

リモートInsightボードからSNMPトラップ アラートを受信するリモート管理用PCのIPアドレスまたはコンピュータ名を入力します。このフィールドを設定し、PPP/SNMP電話番号フィールドで電話番号を設定しない場合、リモートInsightボードは、必ず、リモートInsightボードのモデムではなくNICを経由してユーザにSNMPトラップ アラートを送信します。管理用PC設定の多くについては、このアドレスを指定する必要はありません。詳細については、『Compaq Insight Asynchronous Management ユーザ ガイド』を参照してください。

セキュリティ アクセス

ユーザのアクセス権を選択します。選択可能な項目は次のとおりです。

- **スーパーバイザ** - ユーザをスーパーバイザ モードに設定すると、ログイン アクセス、リモート コンソール アクセスおよびリモート サーバ リセット アクセス権は自動的にオンに設定されます。いずれかのアクセス権をオフに変更すると、スーパーバイザ ステータスは自動的にオフになります。
スーパーバイザ ステータスのユーザは、他のリモート Insightユーザの設定をリモートで追加、削除および変更できます。
- **リモート コンソール アクセス** - リモート コンソールアクセスをオンまたはオフに切り替えるには、スペース バーを使用します。ユーザがスーパーバイザ モードのとき、そのユーザのリモート コンソール アクセスをオフにすることはできません。ユーザにログイン アクセス権はありますが、ホストサーバのコンソールにアクセスすることはできません。
- **リモート サーバリセット アクセス** - リモート サーバリセット アクセスをオンまたはオフに切り替えるには、スペース バーを使用します。ユーザがスーパーバイザ モードのとき、そのユーザのリモート サーバリセット アクセスをオフにすることはできません。ユーザにログイン アクセス権はありますが、リモート サーバをリセットすることはできません。
- **ログイン アクセス** - ログイン アクセスをオンまたはオフに切り替えるには、スペース バーを使用します。ユーザがスーパーバイザ モードのとき、そのユーザのログイン アクセスをオフにすることはできません。ログイン アクセスできないユーザでもアラート機能が有効であればアラートを受信できます。この機能を使用して、ボードからのアラートを受信してもログイン アクセスできないサービス プロバイダであるユーザを作成できます。

受信アラート

このユーザが受信するアラートを選択します。選択可能な項目は次のとおりです。

- **ホストO/Sで発生**- これらのアラートは、サポートされるネットワーク オペレーティング システムごとに提供されるInsightマネージャ エージェントによって生成されます。これらのアラートを受信するには、これらのエージェントをホスト サーバにインストールしなければなりません。これらのアラートは、ネットワーク上のInsightマネージャ クライアントに送信されたあと、リモートInsightボードによって、受信できるように設定されたユーザに非同期に転送されます。ユーザがこれらのアラートを受信できるように設定するには、このフィールドを選択して、リモート管理用PCの電話番号がPPP/SNMP番号フィールドに入力されているかどうかを確認します。ユーザの電話番号を設定すると、リモートInsightボードは、必ず、NICではなくモデムを経由して、そのユーザにSNMPトラップ アラートを送信します。ユーザがNICを経由してこれらのアラートを受信するように設定するには、このフィールドを選択して、SNMP IPアドレス フィールドでリモート管理用PCのIPアドレスが指定されていること、およびPPP/SNMP電話番号フィールドで電話番号が設定されていないことを確認します。このフィールドのデフォルトは、[選択しない]です。
- **リモートInsightボードで発生**- これらのアラート条件はリモート Insightボードによって検出されるため、ホストサーバのオペレーティング システムから独立しています。これらのアラートは、InsightマネージャのSNMPトラップか、またはポケットベル アラートです。このようなアラートとしては、サーバの停電やサーバのリセットなどの主要なイベントがあります。また、バッテリー障害、ケーブルの緩み、認可されていないログインの試行などのリモートInsightボードのイベントも含まれます。ユーザがこれらのアラートを受信できるように設定するには、このフィールドを選択して、ポケットベルまたはリモートの管理用PCが設定されているかどうかを確認します。このフィールドのデフォルトは、[選択する]です。

キーボード

このパラメータは、ホスト サーバに接続されている国別キーボードを示します。デフォルトは[日本語]です。

アラート

このパラメータは、リモートInsightボードがアラートを送信できるかどうかを指定します。これはグローバル フラグで、すべてのユーザに影響を与えます。デフォルトは[有効]です。

待機中アラート

このパラメータは、現在リモートInsightボードによって送信されるのを待っているアラートがあるかどうかを示すステータス インジケータを提供します。[はい]のとき、[アラートのペンディング キャンセル]パラメータを使用してこれらのアラートを取り消すことができます。

待機中アラートのキャンセル

このフィールドを使用して、ユーザに配信されていないアラートのペンディング キャンセルをリモートInsightボードに通知します。

イベント ログの消去

このフィールドを使用して、リモートInsightボードのイベント ログを消去します。ボードとリモート接続した場合のみ、イベント ログを参照できます。

バッテリー

このフィールドを使用して、リモートInsightボードのバッテリーをオンまたはオフにすることができます。ユーザ アラートの生成とバッテリーの放電を防止するためには、必ず、バッテリーをオフにしてからサーバの電源を切ってください。デフォルト値は[オン]です。

バッテリーの状態

このフィールドは、バッテリーの現在のステータスを表示します。表示される値は、[OK]、[接続されていない]および[交換が必要]です。

リセット コマンド

これらのコマンドを使用することによって、リモートInsightボードの各種の設定をリセットまたは初期化できます。

通信設定

すべての通信設定値をデフォルト値に復元する場合に選択してください。この中には、モデム設定、シリアル ポート設定、ポケットベル設定、ダイヤルイン セキュリティおよびダイヤルアウト設定のすべての設定パラメータが含まれます。これは、個々のユーザのログイン設定情報には影響しません。

索引

C

Compaq Insight マネージャ
リモートInsightボードの
接続 1-7
CPQRI.NLM 3-6

E

EISA コンフィギュレーション
ユーティリティ
システム コンフィギュレーション
ユーティリティ参照

I

ID、サーバ D-4
Insight マネージャ
統合 1-2
IP アドレス
設定 C-1
ルートの追加と削除 C-2

L

LAN アクセス 1-2
LAN ケーブルの接続 2-10

N

NetWare ドライバ
サポート 3-6
NIC 1-2

P

PCI エクステンダ ブラケット、
インストール 2-4
PPP ダイアルイン アクセス 1-3

R

RJ-45 コネクタ x
ROM、システム
必要最小限 2-3

S

SmartStart による設定 3-3
SNMP
電話番号 D-15

W

Windows NT ドライバ
サポート 3-7

Y

"Y"ケーブル 2-7

あ

アース、推奨器具 B-2
アースの方法 B-2
アースバンド
仕様 B-2

- 使用 B-2
- アイコン
 - 装置の記号 x
- アクセス権
 - スーパーバイザ D-16
 - 設定 D-16
 - リモート コンソール D-16
 - リモート サーバ
 - リセット D-16
 - ログイン D-16
- 新しいサーバのセットアップ 3-3
- アップグレード 1-5
- アラート
 - 概要 1-8
 - サーバのリセット D-17
 - 受信、設定 D-17
 - 待機中、キャンセル D-18
 - 待機中、設定 D-18
 - 停電 D-17
 - ホスト O/S で発生 D-17
 - [有効]の送信 D-17
 - リモート Insight ボード D-17
- アラート通知
 - サーバの障害 1-2
 - 停電 1-3

い

- イベント ログ D-18
- イベント ログの消去 D-18
- インストール
 - リモート Insight ボードの準備 2-2

え

- 英数字ポケットベル通知機能 1-2
- エクステンダ ブラケット、
 - インストール 2-4

か

- かかと用アースバンド、使用 B-2

き

- キーボード
 - "Y"ケーブルの接続 2-7
 - 種類、設定 D-17

- 接続 2-7
- 既存のサーバにインストールする 3-1、3-5

く

- グラフィカル リモートアクセス 1-2

け

- 警告
 - 感電 xi
 - ラックの安定性 xi

こ

- コンパックの Web サイト xi
- コンフィギュレーション ロック
 - スイッチ 3-2

さ

- サーバ
 - ID D-4
 - スロットの選択 2-2
 - 名前 D-4
 - 分解 2-5
 - リセット、アラート D-17
- サーバの起動およびシャットダウン
 - シーケンスの再生 1-3
- サーバの障害
 - アラート通知 1-2
- サーバを新規にセットアップする 3-1
- 再起動制御 1-2
- 作業用具
 - 導電性のもの B-2
- サポートされるオペレーティングシステム 1-3
- サポートされるサーバ 1-3
- サポートされるソフトウェア 1-3

し

- システム コンフィギュレーション
 - ユーティリティ 3-5
- システム、静電気による損傷の防止 B-1

システム ROM
 必要最小限 2-2
 自動サーバ復旧 1-2
 初期化コマンド
 外付けモデム D-10
 内蔵モデム D-7
 シリアル ケーブルの接続 2-8
 シリアル ポート
 最大速度 D-9
 状態 D-8
 設定 D-8
 ダイヤルバック D-13
 シリアル番号 D-4

す

スイッチ、コンフィギュレーション
 ロック 3-2
 スーパーバイザ
 アクセス権 D-16
 ストップ ビット
 選択 D-10
 ポケットベル D-12
 モデム D-7
 スロット
 選択 2-2

せ

静電気対策
 運搬の際 B-1
 警告 B-1
 防止 B-1
 保管の際 B-1
 静電気防止用のケース
 運搬の際 B-1
 保管の際 B-1
 製品番号
 アップグレード 1-5
 モデル 1-4
 セキュリティ
 アクセス権の設定 D-16
 シリアル ポート ダイヤル
 バック D-13
 ダイヤルイン、設定 D-13
 ダイヤルイン、ログイン回数
 のスレッシュホールド D-13
 ダイヤルバック番号 D-14
 ユーザのパスワード設定 D-14

セキュリティ機能
 概要 1-8
 ダイヤルバック 1-8
 ユーザのアクセス 1-8
 ログインの失敗 1-8
 接続
 LAN 2-10
 キーボード 2-7
 シリアル 2-8
 電源 2-11
 電話ケーブル 2-9
 バッテリー ケーブル 2-2
 モニタ 2-7
 リモート Insight ボード 2-6
 設定
 IP アドレス C-1
 サーバ ID D-4
 サーバ名 D-4
 シリアル ポート D-8
 ソフトウェア 3-1
 ワークシート 3-3

そ

装置の記号 x
 速度
 シリアル ポート モデム D-9
 選択 D-6
 ポケットベル D-12
 外付モデム
 初期化コマンド D-10
 ダイヤル プレフィックス D-10
 リセットコマンド D-10
 ソフトウェア設定 3-1

た

待機中アラートのキャンセル D-18
 ダイヤル プレフィックス
 外付モデム D-10
 ダイヤル プレフィックス コマンド
 内蔵モデム D-7
 ダイヤルイン アクセス、PPP 1-3
 ダイヤルイン セキュリティ
 シリアル ポート ダイヤル
 バック D-13
 設定 D-13
 ログイン回数
 のスレッシュホールド D-13

ダイヤルバック
番号 D-14
ダイヤルバック セキュリティ 1-8

つ

通信
設定 D-18
つま先用アースバンド、使用 B-2

て

データビット
シリアルポート D-9
内蔵モデム D-6
ポケットベル D-12
電源
接続 2-11
停電のアラート D-17
電話ケーブルの接続 2-9

と

動作 1-6
ドライバ
インストール 3-5

な

内蔵モデム ステータス D-6

ぬ

ヌル モデム ケーブル D-8
ヌル モデム ケーブルの接続 D-9

ね

ネットワークの接続 2-10

は

バージョン、ファームウェア D-4
ハードウェアベースのリモート
コンソール 1-2
パスワード
ユーザの設定 D-14
バッテリー
ケーブルの接続 2-2

状態 D-18
バックアップ 1-3
バッテリー バックアップ 1-3、1-9
パリティ
選択 D-7
ポケットベル D-12
番号、ダイヤルバック D-14

ひ

日付、ファームウェア D-5
表記上の規則 ix

ふ

ファームウェア
バージョン D-4
日付 D-5
部品
適切な取扱い B-1
ブラウザ サポート 1-2
プロセッサ 1-1

へ

ヘルプ情報
追加情報 xi
ヘルプ情報の入手方法 xi

ほ

ポケットベル
ID/PIN 番号 D-15
ストップビット D-12
速度 D-12
データビット D-12
パリティ D-12
番号 D-15
メッセージの遅延 D-12
ポケットベル通知機能
英数字 1-2
ホスト O/S
生成アラート D-17
本文中の記号 x

め

メッセージ
遅延、ポケットベル D-12

も**モデム**

- 初期化コマンド D-7
- ステータス、内蔵 D-6
- ストップビット D-7
- 設定 D-6
- 速度 D-6
- 外付、初期化コマンド D-10
- 外付、ダイヤルプレフィックス D-10
- 外付、リセットコマンド D-10
- ダイヤルプレフィックスコマンド D-7
- データビット D-6
- パリティ D-7
- リセットコマンド D-7

モデム共有サポート 1-2

モデル

- リモート Insight ボード 1-4

モニタ

- 接続 2-7

ゆ

ユーザのアクセス 1-8

ユーザの設定 D-14

り**リセット**

- コマンド D-18
- 再生 1-3

リセットコマンド

- 外付モデム D-10
- 内蔵モデム D-7

リモートコンソール

- アクセス権 D-16

リモートサーバリセット

アクセス権 D-16

リモート Insight ドライバの

インストール 3-5

リモート Insight ボード

Compaq Insight マネージャによるアクセス 1-7

IP アドレス C-1

アラート D-17

サーバの互換性 1-3

システムとの関係 1-6

製品番号 1-4

接続 C-1

定義 1-1

動作 1-6

特長 1-2

プロセッサ 1-1

ボードのインストール 2-1

ボードのコネクタ 2-6

モデル 1-4

リモート Insight ボード デバイス

ドライバのインストール 3-5

リモート制御ソフトウェア、

インストールと設定 3-9、3-10

る

ルート、追加と削除 C-2

ろ

ログ、イベント D-18

ログイン

アクセス権 D-16

ログイン回数のスレッシュヨ

ルド D-13

ログインの失敗 1-8

ログイン名 D-14